
~ run for money ~ **逃走中** with **アイドルマスター**

イブニングゼロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

run for money } 逃走中
with アイドル
マスター

【Nコード】

N3969Q

【作者名】

イブニングゼロ

【あらすじ】

その名の通り、アイドルマスターのキャラクターで『逃走中』をやる話です。

765プロメンバー+ の今世紀最大の戦いが始まる！果たして、逃げ切る者は、現れるのか！？

逃走者紹介（前書き）

逃走者となるアイドル達 + の紹介です。

逃走者紹介

〽今回の逃走者紹介〽

天海春香

〽Haruka Amami〽

ミッションにはやや積極的。追われている最中にどんがらがっしゃーんしないかだけが心配。

如月千早

〽Chihaya Kisaragi〽

消極的な印象だが、実はけっこう乗り気だったりする。

「765プロの一人として負けられないわ」とやる気も十分。

萩原雪歩

〽Yukihiko Hagiwara〽

男の人が苦手なため、ハンターにビビりまくり。しかし、L4Uにて控室の床に穴を掘るほどの力を披露している（マジです）ため、潜在能力はあなどれない!?

高槻やよい

〽Yayoi Takatuki〽

貧乏暮らしの家族がいるため、このゲームにかける思いは人一倍強い。
ゲーム開始前には他の逃走者を「ハイ、タッチ！」で元気づけていたりする。

菊地真

＼ Makoto Kikuchi 〵

本人は女の子らしくしたいと思っているのだが、ジャージで参加していたり、ミッションにかなり積極的だったりで男っぽい所ばかり目立っている。

秋月律子

＼ Rituko Akizuki 〵

事務員を兼任しているだけあって非常に計算高い。
動くか動かないか、ミッションをやるかやらないかを状況に応じて決める冷静さを持つ。

水瀬伊織

＼ Iori Minase 〵

ワガママお嬢様なので、よほどの事がない限り基本的にミッションは人任せ。

実は案外策士だったりする。

読む際には釘宮病に注意。

三浦あずさ

（Azusa Miura）

壊滅的な方向音痴で、いつの間にか常識的にありえない場所までワープ？してしまう事がある。

そのため、逃走成功の大本命にして逃走エリア外に出て失格になる可能性No.1。

双海亜美

（Ami Hutami）

なかなかずる賢く、逃げるためならルール違反にならない範囲でなんでもする。

今回はテレビカメラで撮影している設定なので、真美は事務所で亜美を応援している。

星井美希

（Miki Hoshii）

撮影の日はいつもより起きるのが早かったので眠そうにしていたが、本気になるとうすい。

本作の彼女はアイドルとしての自覚を強く持つようになった、所謂『覚醒美希』となっている。でも髪は金髪のまま。

我那覇響

＼ Hibiki Ganaha ＼

気温の高い沖縄育ちのため、体力には自信がある。
本作ではすでに961プロから765プロに移籍している。

四条貴音

＼ Takane Shijō ＼

ミスティアスな印象を持ち、運動はできるのかは不明。
彼女も本作では765プロの仲間。

音無小鳥

＼ Kotori Otonashi ＼

事務員でありながらまさかの参戦。
ゲーム開始前から逃げ切つてアイドル達に胴上げされる姿を妄想中。
そんな心構えで大丈夫か？

プロデューサー (P)

＼ Producer ＼

まさかの参戦その2。
その姿は読者に委ねる。

CVはドラマCDでプロデューサーを演じていた泰勇气さん。

日高愛

＼ A i H i d a k a 〵

876プロからの参戦。

「とつげき豆タンク」のキャッチコピーの通り、積極的に動き回る。

水谷絵理

＼ E r i M i z u t a n i 〵

ある意味876プロの頭脳。引きこもり時代に逃走中をよく見ていたため、戦略をたてるのは得意？
しかし、体力に自信はほとんどない？

秋月涼

＼ R y o A k i z u k i 〵

律子のいところにあたるが、性格はほぼ反対。
驚くとすぐ叫ぶので見つきりやすいかもしれない。
実は男の子なのは他の逃走者には内緒だぞ！絶対だぞ！

日高舞

＼ M a i H i d a k a 〵

かつて引退し、娘の愛の活動が軌道にのってきた事をきっかけに復活した伝説のアイドル、ここに見参！
破天荒で大胆不敵、親子揃ってハンター以上に神出鬼没。

東豪寺麗華

（Reika Tougouji）

漫画作品に登場したライバルキャラで、伊織とは何らかの縁があるらしい。

昔は卑怯な手を使ってトップを目指していたが、本作では改心しており、正々堂々かつ虎視眈々と逃走成功を狙う。

以上、19名

逃走者紹介（後書き）

真美

「あとがきは真美がたんとーするよ。更新は遅いけど、応援よろ
」

オープニングゲームですよ、オープニング！（前書き）

リリカルショーバイさんみたいな演出はできないので、ちょっと凝ってみました。

オープニングゲームですよ、オープニング！

謎の存在

「・・・・・・・・・・」

目の前のモニターにいくつもの場所が映し出されている。

*SEASIDE TOWN

*HUIS TEN BOSCH

*THEME PARK

*NATURAL PARK

謎の存在は*THEME PARKを
タッチした。

画面をスライドさせる。

PLAYER 19 VS HUNTER 4

さらにスライドさせる。

丸い画像にタッチし、円を描く。

すると、円グラフのように画像が赤くなり始める。

赤い部分は途中で止まり、その上には。

* 80 minute .

さらに、下にある矢印のようなものを操作した。

PRIZE RATE

DOWN 200/s . UP

さらにスライドさせると、全ての項目が映しだされた。

* THEME PARK

PLAYER 19 VS HUNTER 4

80 minute .

200/s .

この設定でゲームを始めます。

よろしいですか？

[OK] [NG]

謎の存在はなんのためらいもなく、『OK』をタッチした。

春香

「みなさん、逃走中ですよ、逃走中！>ワ<」

765プロのアイドルの一人、天海春香の声が、とある遊園地に集められた逃走者達のテンションを一気に高める。

千早

「こんな時なのに、相変わらずね」

プロデューサー（以下P）

「春香らしいというか、なんというか・・・」

やよい

「うっうー！なんだか、ドキドキします！」

伊織・麗華

（こいつだけには絶対負けたくない・・・）

愛

「絶対ママより長く逃げてやるもんね！」

舞

「ふふっ、さすがに娘に負ける訳にはいかないわ！」

小鳥

「なんかすっごい火花が見えるんだけど？」

絵理

「気にしたら負け？」

亜美

「確保ー！（ガバツ）」

涼

「ぎゃおおおおん!？」

あずさ

「みんな〜。迷わないようにね〜」

律子

「今、ありえないセリフを聞いたような気がしたわ」

貴音

「はい・・・」

真

「あれ？雪歩は？」

雪歩

「うっ・・始まる前から怖がってるようなダメダメな私は・・穴掘って埋まっていますぅ〜〜〜!」

響

「あゝ、掘るなゝ、埋まるなゝ!」

美希

「・・・あふう」

思いつきに言葉を交わす逃走者達。
その服装はいつもの私服やステージ衣装ではなく、なんとなく近未来っぽい服になっていた。

そんな中、全ての始まりを告げる声が辺りに響き渡った・・・

高木社長 モニターに映っている

「やあ、逃走者の諸君!」

765プロ勢

「じゃ、社長!?!」

社長

「これより、ゲームを始める！」

一同

「イエ〜〜〜イ！」

社長

「君達には事前のくじ引きによって決められた順番に一人ずつ前に出て、サイコロを振ってもらう」

P

「あ、これだな」

社長

「サイコロの目は1から5、そして『ハンターの目』。サイコロの数だけ君達の目の前にあるハンターボックスが前進し、20マス進めば、ハンター放出まで一分の猶予が与えられる」

逃走者達の視線の先には、4体のハンター……

雪歩

「……あの中に入ってるままなら大丈夫……」

伊織

「雪歩は黙ってて！」

雪歩

「うう、ひどいよ、伊織ちゃん（ノ）。」

社長

「但し、『ハンターの目』が出てしまうと、その場でハンターが放出され、ゲームがスタートする」

貴音

「つまり、ハンターの目以外を出せばいい訳ですね」

千早

「確率は1/6・・・油断はできないわ」

くオープニングゲームく

ハンターまでの初期距離は、1マス1メートル×20マスで20メートル、そこからサイコロを振る場所までが15メートル、さらに他の逃走者の位置まで5メートル。全体で40メートルの距離がある。

逃走者は一人ずつ前に出て、サイコロを一回振る。

出た目の数だけハンターボックスは前進し、20マス進めばクリア。ハンターが放出されるまでの一分間、自由に逃げる事ができる。

但し、『ハンターの目』を出してしまった場合、その場でハンターを即放出。

逃げ遅れた者がハンターの餌食となる！

一人目・如月千早

春香

「千早ちゃん、頑張ってる！」

千早

「さすがに一番最初で放出、なんてなる訳にはいかないわね・・・」

セーフか？ ハンター放出か？

千早

「いきます！やあっ！」

思い切り投げたサイコロは地面に何回かバウンドし、やがて停止した。

出た目は・・・3

クリアまで残り17マス

千早

「まずまずつて所かな？」

二人目・日高舞

愛

「……………」

舞

「心配しなくても大丈夫よ？運は私の味方よ」

セーフか？ 放出か？

舞

「どじりゃ〜〜〜！」

なんと、サイコロを蹴り飛ばしてしまった！

スポット

舞

「あれ？」

サイコロはハンターボックスの後の茂みにひっかかった。

逃走者達

「あははははは！（笑いがおきた）」

愛

「もう、ママったら〜！」

舞

「うふふ、失敗、失敗〜」

気をとりなおして、もう一度。

セーフか？ 放出か？

舞

「ほいつ〜！」

今度はやさしく投げられたサイコロは、すぐに停止。

・・・5だった！

残り12マス

舞

「ぞつとこんなもんよ!」

三人目・萩原雪歩

雪歩

「……………(ガクガク)」

真

「雪歩、大丈夫かな…」

しかし本人は、ビビりながらもサイコロを振るつと身構える。

セーフか？ 放出か？

雪歩

「……………いきますっ!」

意を決して、サイコロを放り投げる!

高く上がったサイコロは地面に大きくバウンドし、やがて停止した。

雪歩

「……………」

P

「ハンターの目ではなかったみたいだな」

雪歩

「・・・でも・・・大きい数出せなかった・・・。サイコロも見た目も
ひんそーな私は穴掘って埋（ry）」

真・P・麗華

「うおいつ!!」

ちなみに、1でした。

残り11マス

四人目・水瀬伊織

伊織

「そーーれっ!!」

春香・律子・美希・P

「早っ!?!」

迷いのない一投。

セーフか？ 放出か？

サイコロはハンターボックスに当たって停止した。

・・・2でした。

残り9マス

伊織

「きーっ！なんでよー！この伊織ちゃんが一番気合い入ってたのにー！」

五人目・三浦あずさ

あずさ

「いきますよ〜」

亜美

「そろそろ来るかもよ〜」

春香

「あずさんに限ってそんな事は・・・」

美希

「逃げる準備は万端なの」

セーフか？ ハンター放出か？

あずな
「えい」

サイコロはゆるやかに飛び、地面にぶつかりやがて停止した。

あずな

「あらあら？」

絵理

「……やっちゃった？」

春香

「(の) (の)」

涼

「しねは……」

やよい

「まさか……」

P

「……あ……」

麗華

「ウソだろ・・・！」

・・・サイコロは赤い部分を上にしていた！

しかも、妙にリアルな目の絵が・・・！

亜美

「ハンターの目だ〜！」

ブシューーッ！

ガシャン！

ハンター

(・・・追跡、開始)

逃走者達

「うわあああああああああああああ~~~~~！」

遂に、80分間の逃走劇が、幕を開けた！

放出された4体のハンターが目の前の逃走者達に牙を向く！

逃げ遅れた者が、最初の犠牲者となる・・・

後ろから二番目となっている、小鳥・・・

小鳥

(後ろの方だけど大丈夫！私のもっと後ろにはあずささんが居るから私が捕まる心配は・・・)

こっせん。

小鳥

「あれれ〜〜!?すでに居ない〜〜!」

方向音痴ワープ、炸裂。

これにより、4体のハンターの標的となった小鳥。

小鳥

「早い!ハンター早い!」

ハンターの脚力は半端なものではない。

次第に、距離が縮まっていっく……

小鳥

「きゃあああ〜!」

ポンッ

音無小鳥 確保

残り18人

79:41/¥3800

小鳥

「……やっぱり主役はアイドルじゃないとダメなの？」

逃走劇は、全員が主役だ……

春香

「あ、メール？」

そして、この情報は逃走者に支給された携帯電話にメールで伝えられる。

P

「『確保情報』……」

響

「『パーフェクト・サン・パラダイス北部・観覧車付近にて』……」

┌

律子

「小鳥さん確保・・・！」

愛

「『残り18人』・・・」

一方、ハンターの目を出した張本人は・・・

あずさ

「どこはどこかしら？」

やっぱり迷っていた。

今、幕を開けたアイドル達の戦い。

逃げた時間に応じて、賞金を獲得できるゲーム。

それが・・・！

run for money 逃走中

今回の舞台は、海辺に建設された超巨大テーマパーク『フォーチュナル・ファンタズマゴリア』。

アイドルアルティメイトで961プロに勝利した765プロを若干意識して作られた非常に大規模なテーマパークで、876プロや765プロも時々そこでライブを行っている。

赤いタイルが敷き詰められ、観覧車やジェットコースターなどのアトラクションを持つ北側のエリア『パーフェクト・サン・パラダイス』。

青いタイルの床と多くの緑にあふれた南西のエリア『ミッシング・ムーン・ガーデン』。

黄色のタイルの床の上に近未来的な建物とフリーフォール、3Dシアターやレストランのあるドームを擁する南東のエリア『ワンダリング・スター・スペース』。

そして、この三つに分かれたテーマパークの中心にある『レインボータウン』。

この四つのエリアで構成された円形のテーマパークで、広さは東京ドーム3.5個分弱に相当する。

この非常に広いエリア内を19人の逃走者が逃げる。すでに小鳥が確保されたため、残りは18人だ。

伊織

「あつ、もう一万超えたの!?!」

律子

「一秒で2000円なら、一分で12000円、これが80分だから・
・・960000円!?!?」

賞金は一秒ごとに2000円ずつ、常に上昇している。

見事80分間逃げ切る事ができれば、最高賞金96万円を獲得できる!
る!

真

「ここかな?自首できる所は」

真の手には、逃走者達に支給された発煙筒。

このゲームは、自首もできる。

四つのエリアの中心に一つずつ用意された765プロのマークのシ
ンボルの元で支給された発煙筒の煙を上げれば、自首成立。
その時点での賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

だが、彼女達には常に恐怖の追跡者『ハンター』の脅威に晒されて
いる。

非常に高い瞬発力と持久力を持ち、一度逃走者を見つけると、見失
うまで機械的に追いつける。

彼等に捕まれば……賞金は、ゼロ！

恐怖と欲望が渦巻くアイドル達の戦いは、まだ始まったばかり。

果たして、逃げ切る者は、現れるのか！？

オープニングゲームですよ、オープニング！（後書き）

真美

「んっふっふっ 誰が逃げ切るのか楽しみだな〜」 読者の兄ちゃん姉ちゃんも応援よろ」

膠着状態？（前書き）

タイマーや確保時のやつは自分なりに記号を組み合わせてみました。

そして、早くもお気に入り登録が3件も！

しかし、私のメインの長編より更新速度が速いって、どういことなの・・・

膠着状態？

ゲーム残り時間

78:42 / ¥15600

くパーフェクト・サン・パラダイスとレインボータウンの境目

雪歩

「うっっっっ」

すでにビビりまくりの、穴掘りアイドル・・・

雪歩

「・・・やっぱりテレビで見るより怖いなあ・・・ハンターってみんな男の人だし・・・」

雪歩は男性が苦手で、当初はプロデューサー相手でもすごく距離をとらないと話す事ができないくらいだった。（公式ホームページのキャラクター紹介ムービーを参照）

雪歩

「うん、いったん落ち着こう・・・」

そう言って近くのベンチの後ろに隠れる。

言わずもがな、穴を掘って隠れるのは禁止だ。

春香

「・・・なんか、すっごい怖がってる」

その向かいの看板に潜む、アイドルマスターシリーズの事実上のメインヒロイン・・・

息を殺し、じっと動かずにいる二人の近くに・・・

ハンター

「・・・」

春香

（早く行って・・・）

雪歩

(埋まりたいけど、ガマンガマン……)

ハンター

「……………」

ハンターは、気づいていないようだ。

二人の潜むベンチと看板の間を通り過ぎ、他の逃走者を探しに行つた。

ハンターはエリア内をくまなく搜索し、基本的に視界に入った逃走者のみを追跡する。
待ち伏せは一切しない。

くミッシング・ムーン・ガーデン・噴水広場く

美希

「ハンターもみんなも見つからないの。ハニー、美希、退屈なの」

P

「確かにな」

真
「そうですね」

ベンチでゆったりと休む、プロデューサーと美希、そして真。

ピリリッピリリッ

……メールだ。

美希
「あ、またきつと誰か捕まったの！」

真
「なんだって!?!」

P
「……あれ?通達?」

やよい
「『エリア内には7つの宝箱が設置されている。』宝箱?」

舞

「『4つは逃走に役立つアイテム』」

涼

「『2つは激レアアイテム』?」

響

「『1つは開けると大変な事になるハズレの宝箱』」

亜美

「『どの宝箱に何が入っているかはわからない』だって?」

麗華

「『早い者勝ちだ』か。これは頂いておく価値ありだな」

（通達）宝箱を探せ！）

現在、エリア内のどこかにある7つの宝箱。

その中には逃走に役立つアイテムが4つ、激レアアイテムが2つ入っている。

そして、開けると『大変な事になる』ハズレの宝箱も1つある。

基本的には早い者勝ちだが、動けばハンターに見つかるリスクも高まる。

宝箱を探すかどうかは、逃走者の自由だ。

雪歩

「もしかして、これ？」

春香

「うん、きつとそつだよ。やったね、雪歩！」

偶然、雪歩が隠れていたベンチの近くにあった宝箱。

その中身は……

春香・雪歩

「……………あ？」

でかい手錠だった。

雪歩

「まさか、これでハンターを捕まえるって言うんじゃない……」

春香

「その前にこっちが捕まっちゃいそう……重いし」

ちなみに、約15キロ。

これが入っていた宝箱もなかなかの大きさだった。

邪魔になりそうだと判断し、放置する事にした。

二人は別行動をとる事にし、再び隠れ場所を探し始める。

この時、この宝箱の底に『激レアアイテム』と書かれた紙があった事に二人が気づく事はなかった……

ゲーム残り時間

76:32 / ¥41600

残り18人

膠着状態？（後書き）

真美

「ミッションはも ちよい待ってね」

そして、ゲームは動き出す（かもしれない）（前書き）

アイマス2のジューピターについてですが、『黒井社長自ら歌った方がいいんじゃない？』という意見があるらしいです。（ニコニコ大百科の掲示板より）

逃走中同盟の皆様はどう思いますか？

そして、ゲームは動き出す(かもしれない)

ゲーム残り時間

76:20 / ¥44000

くワンダリング・スター・スペースのとある曲がり角近く

舞

「・・・あなたは私より幸せ者だわ」

千早

「え!?!いきなりどうしたんですか!?!」

伝説のアイドルの淋しげな一言に、千早はただ驚くばかり。

舞

「私が一度アイドルをやめたのは、あなたのように対等に競い合えるライバルを見つけれなかったからなの。今でも、娘が自分の所に登り詰めるのを待っただけってのもねえ・・・」

千早

(・・・私に似てる)

千早はふと765プロに入ったばかりの自分を思い出した。

歌にしか興味がなかったかつての自分ならば、このゲームを楽しいとは思わないだろう。

千早が今を楽しむ事ができるのは、春香を始めとした事務所の仲間達、自分をここまで導いてくれたプロデューサー、そして今までにオーディションで競い合った全国のライバル達が居たからである。

そして今、自分はこのゲームの中でたくさんの逃走者と共に勝利を目指している。

ハンター

「・・・・・・・・」

目の前を通り過ぎるハンターを舞と共に物陰から見送りながら、千早は決心した。

必ず、逃げ切る。

二人の前を通り過ぎたハンターの視線の先には、765プロのマー
クのシンボル。

このシンボルの元で発煙筒の煙を上げれば自首となり、その時点で
の賞金を獲得できる。

改めて言うが、ハンターに捕まれば賞金は、ゼロ。

伊織

「……やばい……」

シンボルの後ろに身を隠す、伊織。
ゲーム中でも、ウサギのぬいぐるみは、離さない。

伊織

「いくらなんでもミッションが始まらないうちに捕まるのはカッコ
悪すぎるでしょ……!」

彼女が捕まれば、全国の伊織ファンの皆様の、命が危ない！（釘宮
的な意味で）

ここで時間は少し遡る。

伊織が隠れているシンボルを挟んだ反対側で、二人の逃走者が出会
う。

絵理

「あ？」

麗華

「確か、水谷絵理といったか。こんな所で何してんだ？」

絵理

「隠れ場所探し？」

麗華

「その喋り方はなんとかならないのか？」

絵理

「無理」

麗華

「そこは普通かい！それじゃ、私はお宝探しに行くからな、あばよ
！」

絵理

「うん、また？」

二手に分かれた、元引きこもりと、魔王……

麗華

「ん？あいつは……」

その先で麗華は、自首地点のシンボルに隠れる伊織を発見。

しかし、建物が邪魔で、その先に居るハンターに気づいていない！

麗華

「お？伊織じゃないか！」

伊織は麗華の姿を見つけると、口元に右手の人差し指をあてながら、左手で追い払うような動作をする。

麗華

「なんだよ、人がせつかく会いに来てやったのにシッ、シッはないで……っ！」

ハンター

「………！」

見つかった……

麗華

「や、やばいやばいやばいっ!」

ハンターは麗華を追う事に夢中で、伊織には気づいていない。

伊織

「だから言わんこっちゃない……!」

この隙に、伊織は千早と舞が隠れている方向へ逃げていった。

麗華

「捕まっつてたまるか〜!」

麗華が逃げた先には……

涼

「ん?あれは東豪寺プロの麗華さん?」

麗華

「逃げろ〜!ハンターがこっちに来るぞ〜!」

涼

「え、ハンター！？ちょ、ちょっと、置いてかないで〜！」

巻き添えを喰らった・・・

ハンターは基本的に視界に入っている中で一番近い逃走者を追う。

麗華が涼を追い越したため、ハンターは涼に狙いを定めた。

涼

「わ〜！ヤダ〜！」

麗華はその先の曲がり角へ逃げてハンターの視界から消えたが、涼はまだ追いかけられている。

律子

「これは、終わったわね」

ハンターに追われる涼の姿は、近くの建物の影に潜んでいた律子の目にも映っていた。

なおも逃げ続ける涼。しかし・・・

ハンター

「！」

逃げた先にも、ハンター……

涼

「ぎゃおおおおん！」

ポンツ

秋月涼 確保

残り17人

ゲーム残り時間

74:29 / ¥66200

涼

「ついてなさすぎるよ〜！ハンター速すぎだし、逃げられた時間も短すぎるし、もうヤダ……」

本人は、泣きすぎだ……

愛

「涼さん捕まった〜！」

伊織

「・・・麗華の奴、運がよかったわね」

貴音

「安全な場所はないに等しいと言っても過言では・・・」

過言ではない。

くミッシング・ムーン・ガーデンのとある場所

真

「くくく、や〜りい〜！」

美希とプロデューサー、真の三人はその後バラバラに分かれ、真は宝箱を見つける。

真

「双眼鏡か……」

真が手に入れたのは、ごく普通の双眼鏡。
辺りを見渡すのはもちろん、他の逃走者やハンターを探したりなど、
使い方は人それぞれだ。

真

「さてと……」

双眼鏡で辺りを見回す。

真

「……やばっ!」

見た先には、ハンター……

すぐさまこの辺から離れる事にした。

一方、このエリアの別の場所にて。

亜美

「発見」

美希

「美希には必要ないから亜美にあげるの」

亜美

「ホント！？ミキミキありがと！」

ハズレを恐れず、勢いよく宝箱を開く。

亜美

「？」

美希

「何これ？」

二人が見つけたのは、クラッカーのような物。

実はこれは、一度だけハンターの動きを止める事ができる網鉄砲。紐を引くと網が発射され、うまくハンターに被せる事ができれば、約15秒の間だけハンターの動きを止める事ができる。

但し、一発撃ってしまったら、おしまい。

亜美

「ラッキ〜」

美希

「これなら一度見つかっても大丈夫なの」

喜ぶ二人の近くに、真が見た、ハンター……

美希

「あ、居るの！」

亜美

「うん……どうしよう」

そう言っている間に、ハンターとの距離が縮まる。

ハンターは壁のように並んだ植物のおかげで、二人に気づいていない。

ハンター

「？」

ハンターが二人の居た場所に辿り着いた時には、すでにその姿はない。

ハンターはそのまま去っていった。

その時、宝箱のフタがひとりでに開いた。

亜美

「んっふっふ。うまくいったね」

美希

「でも、狭い・・・」

宝箱の大きさは大人一人がギリギリ入れるぐらい。
そのため、二人はとっさに宝箱の中に隠れたのだ。

亜美

「宝箱の中に隠れちゃダメとは一言も言われてないもんね」

美希

「それより、今ナレーターさんが変なフラグ立てたような気がしたの・・・」

同時刻、千早が隠れている曲がり角に現れる、一つの存在。（舞はどこかへ行ってしまった）

「千早さん!」

やよいだ・・・

千早

「高槻さん!こんな所で何を?」

やよい

「もちろん、宝箱探しですっ！」

千早

「そう・・・ところで、賞金は何に使うの？」

やよい

「当然、事務所のみんなでもやし祭です！うっうー！」

千早

「そ、そっか・・・（まあ、高槻さんらしいと言えばそうだけど）」

『贅沢』の基準が、ズレている・・・

千早

「私は特に決めてないわね。あまりお金がすごく欲しいって思った事がないし」

やよい

「ダメですっ！こういうのはやり遂げた後の楽しみを考えておかないとー！」

千早

「・・・心得ておくわ」

千早の返事を聞いた後、やよいはシンボルがある方向へ宝箱を探し

に行った。

やよい

「どこにあるんだろう？」

天真爛漫なその笑顔の正面から、黒い影が迫る・・・

やよい

「宝箱さ〜ん！どこです・・・きさ〜！？」

ハンター

「！」

呼ばれて出て来たのは、ハンター・・・

やよいの悲鳴は、千早の耳にも届いていた。

千早

「高槻さん・・・！」

その場から離れる。

やよい

「っ、捕まりそうですっ！って、あー！べろちよる落としたー！」

やよいが落とした『べろちよる』とは、春香からもらったカエルのポシエットの事だ。

地面に落ちたそれに見向きもせず、ハンターはやよいに迫る！

やよいとハンターとの距離は、あと2メートル・・・

やよい

「っひゃっっ！」

ポンッ

高槻やよい 確保

残り16人

ゲーム残り時間

73:13 / ¥81400

やよい

「*TWI） っっっっっ」

もやし祭の夢、破れる……

あずさ

「あらあら……やよいちゃん……」

雪歩

「『ワンダリング・スター・スペース中心部にて』、」

P

「『高槻やよい確保』……!」

絵理

「『残り16人』?」

千早

「……高槻さんの分まで、私が頑張らないと!」

ゲーム残り時間

73:02 / ¥83600

残り
16人

そして、ゲームは動き出す（かもしれない）（後書き）

黒井社長

「おやあ？イブニングゼロ君、まさか私の歌声を聞きたいと言っのかね？」

という訳で、黒井社長もあとがき担当になりました。

真美

「次回はいよいよミッションが始まるよ　！」

桜井夢子と遊園地の爆弾魔〜MISSION1スタート！（前書き）

『クリミナル・マインド』ネタがあります。
リーパーは怖すぎる！

桜井夢子と遊園地の爆弾魔〜MISSION1スタート!

「ふふっ、なかなかいい所じゃない」

桜井夢子は今日、久しぶりの休日であった。

彼女がフォーチュナル・ファンタズマゴリアを訪れた理由は一つ。

ここに居る765プロ、876プロのアイドル達の偵察。

いつしか最大のライバルになるだろうと考えたからこそその行動である。

ちなみに夢子は元々努力はするが手段は選ばない女だったが、本作では麗華同様、涼との対決を経て改心しており、涼とはライバルとして切磋琢磨している。

夢子

「さっさと、次はどこへ行こうかな？」

当初の目的をわずか20分で忘れ、ルンルン気分で楽しむ夢子。

現在はレインボータウンへ足を踏み入れている。

・ ・ ・ ．しかし、楽しい時間は一瞬にして恐怖へと変わるのだった．

カチ、カチ、カチ、カチ、カチ、カチ．．

夢子の近くのゴミ箱から聞こえる、小さな音。

夢子

「ふんふんふん」

カチ、カチ、カチ、カチ、カチ、カチ、カチッ

一瞬、辺りを閃光が包む。

夢子

「!?!」

ズツドーーーーーン!

夢子

「きゃあああああああああああああああ!？」

突然、ゴミ箱が爆発する・・・

夢子は何が起こったかもわからず、ただ叫ぶだけだった。

夢子

「はあ、はあ、いったい何なのよ!」

その時、一人のスーツの女性が多数の男を連れてやって来る。

女性

「遅かったか・・・」

男性の一人

「しかし、奇跡的に死傷者はいないようです」

ここで、女性が夢子に気づく。

女性

「大丈夫ですか?」

夢子

「はい……あなたは？」

女性

「私は、警視庁捜査一課の善永といいます」

夢子

「刑事さん！？いったい何があったんですか！」

善永刑事 出演：善永記者

「落ち着いてください。今すぐにあなたや客達を避難させ……」

ブーーン（携帯のバイブレーター）

善永刑事

「はい、こちら善永」

電話の声

『お久しぶり、善永刑事』

善永刑事

「……その声、それにこの手口……やはりお前か、ジャグラー
！」

ジャグラーと呼ばれた電話の声の男

『そつだ。一年前にあなたが逮捕した者さ』

善永刑事

「目的は何だ！言え！」

ジャグラー

『くつくつく。私はただ、私の脱獄を許した無能な警察どもに自分の新作を見せてやろうと思っただけさ。爆弾魔にとって爆弾は芸術だ』

善永刑事

「……っ！」

ジャグラー

『でも今日は特別にサービスしてやるよ。爆弾はお城、大聖堂、ドームの中に一つずつだ。ウソではない』

善永刑事

「………」

ジャグラー

『でも、ただ教えただけじゃフェアじゃないから、一つゲームをしよう』

善永刑事

「ゲーム？」

ジャグラー

『そつだ。これはゲームだ。爆弾の解体はここで仲良く遊んでいる765プロと876プロのアイドル達にやってもらっ』

善永刑事

「何!?!」

ジャグラー

『もし解体前に客を避難させようとしたり、警察が爆弾に近づくような事があれば、遠隔操作で爆破する。まあ、今のうちに祈っておく事だな(ブツン)』

夢子

「ジャグラーって?」

善永刑事

「・・・一年前に私が逮捕した爆弾魔よ」

夢子

「えっ?じゃあなんでここに!?!まさか、脱獄!?!」

善永刑事

「認めたくないけど、そうよ。奴は自分の皮膚をかみ切り、その血を口に含んで吐血したと見せ掛け、警察病院へ運ばれる途中で逃走した」

夢子

「・・・うつうつ・・・!そ、想像しただけで吐き気が・・・」

爆弾処理班の一人

「どうしますか?」

善永刑事

「奴は最悪の悪党だが、決してウソはつかない。私達が動けば、奴は必ず爆破しようとする」

謎の存在の部屋

モニターには、善永刑事と夢子の姿が映し出されている。

夢子

『じゃあホントにあいつらに任せるしかないって言うの……!』

謎の存在

「……………」

謎の存在は画面をスライドさせ、タッチした。

A D D H U N T E R S .

すると、お城、大聖堂、ドームの中に、ジャグラーによって見つかりにくい所に一つずつ巧妙に仕掛けられていた三つの爆弾が、かなり目立つ所に転送された。

・・・ハンターボックスのオマケ付きで。

ゲーム残り時間

72:00 / ¥96000

貴音

「さて、どこへ隠れましょうか・・・」

プリリッポプリリッ

貴音

「？」

・・・メールだ。

貴音

「これは・・・『ミッション1』！」

春香

「『これより、パーフェクト・サン・パラダイスの古城、』」

真

「『ミッシング・ムーン・ガーデンの大聖堂、』」

あずさ

「『ワンダリング・スター・スペースのドームを逃走可能なエリアとして解放する』」

雪歩

「『その中には爆弾魔によって、時限爆弾が一つずつ仕掛けられている』・・・ば、爆弾!？」

愛

「『その爆弾はゲーム残り60分に爆発し、』」

伊織

「『同時にそれぞれの場所からハンターが1体ずつ放出される』! ?ちよつ、一気に3体も!？」

律子

「『これを阻止するには、レインボータウンの中心街にいる警察から爆弾解体の道具をもらい、』」

美希

「『道具とセットになっている説明書に従って爆弾を解体しなければならぬ』・・・美希にそんな器用な事できるかな・・・」

MISSION 1

爆弾を解体せよ！

ゲーム残り72分より、レインボータウン以外のそれぞれのエリアにある古城、大聖堂、ドームが解放され、逃走エリアが若干拡大された。

それぞれのエリアには、残り60分に爆発する爆弾が仕掛けられており、爆発と同時に近くのハンターボックスからハンターを1体ずつ放出。

最大で3体のハンターがエリア内に放たれる！

ハンター放出を阻止するには、レインボータウンの中心街で警察から解体用の道具を入手し、爆弾を解体しなければならぬ！

なお、解体の手順を間違えると爆弾はすぐに爆発。ハンターもその場で放出される。

春香

「・・・行く！これは誰かが行かないと・・・うっ、うわあっ！？」

どんがらがっしゃーん！

春香

「うっ、負けない・・・」

雪歩

「こ、怖いけど、ハンターが増えるのはもっとヤダよ・・・」

真

「これは僕が行かなくて誰が行くんですか!」

P

「これはプロデューサーとして、いいとこ見せないとな」

美希

「美希、頑張るの!だって、爆発したらきつと誰か死んじゃうもん!
!多分」

響

「自分に行くぞ!爆弾解体なんて、なんくるないさー!」

愛

「行きます!間に合わなくても行かなきゃ!」

ミッションに向かう意思があるのは、春香、雪歩、真、P、美希、
響、愛の七人。

爆弾を解体できなければ、3体のハンターが放出され、合計で7体

となる。

しかし、ミッションに動けば、ハンターに見つかる、リスクも高まる！

果たして、間に合うのか！？

ゲーム残り時間

71:18 / ¥104400

残り16人

ミッション終了まで

11:18

桜井夢子と遊園地の爆弾魔〜MISSION1スタート！（後書き）

黒井

「なかなか面白いじゃないか、このミッションも、この海外ドラマも」 『クリミナル・マインド』のDVDを見ている

真美

「え ? なになに?」 作者に目をふさがれている

黒井

「君にはまだ早い」

果たして、爆弾を解体し、ハンター放出を食い止める事はできるのか!?

迷走Mind(前書き)

タイトルに意味は特にありません。

迷走Mind

遂に始まった恐怖のミッション。
警察から道具をもらい、仕掛けられた三つの爆弾を解体できなければ最大で3体のハンターが放出される。

ゲーム残り時間

71:00 / ¥108000

ミッション終了まで

11:00

愛

「もう少し・・・」

いち早くレインボータウン中心街に到着した、伝説のアイドルの一人娘。

愛

「さっそく道具を・・・あれ？」

視線の先には、宝箱。

そして、それを巡って争う二人の逃走者。

麗華

「これは私が見つけたんだ！私のだ！」

舞

「いや、私が先よ」

麗華・舞

「むむむむむ……」

愛

「……ママ……絶対ミッシェンやらなみそつだと思ってたんだ
よね……」

舞

「こっぴなったら！」

麗華

「ああ！行くぞ！」

二人

「ジャン、ケン、ポン！」

麗華・グー 舞・パー

舞

「あっち向いて、ホイイイイイイ！」

麗華

「・・・負けたく！」

愛

「・・・はあ・・・」

無視して道具を取りに行くようだ。

舞

「さうて、中身は何かなう」と

麗華

「私も気になる・・・」

麗華の目の前で、宝箱が勢いよく開かれる。

パカッ

舞・麗華

「……ギャーーーーーーーー！！？」

愛

「つえ！？」

突然、悲鳴をあげて一目散に逃げる二人。
愛もそれを聞き、思わず走り出した。

そう、舞は『開けると大変な事になる』ハズレの宝箱を開けてしま
ったのだ。

何が大変な事なのか？

大変なのはその中身だった。

ハンター
「！」

ハズレの宝箱に入っていたのは、ハンター……

舞

「こんな聞いてないわよう！」

ハンターに狙われた、伝説のアイドル……

いくら伝説と呼ばれたといっても、舞は普通の人間の女性。
特に陸上部だったとかいう訳ではない。

非常に高い身体能力を持つハンターの魔の手が、すぐそこまで迫る。

舞

「うわあ〜！」

ポンッ

日高舞 確保

残り15人

ゲーム残り時間

70:03 / ¥119400

ミッション終了まで

10:03

舞

「そんなバカな・・・」

どんな人物でも、捕まる時はあっさり捕まる。
それが、逃走中だ。

愛

「じ〜〜〜〜つ・・・」

舞

「ハッ!？」

愛

「(>▽<)
「gg」

舞

「た、たまにはこつこつ事だつてあるわよ!」

春香

「あー!?愛ちゃんのお母さん捕まった!」

美希

「これであと15人なの」

亜美

「ん?」さらに、ハズレの宝箱が開けられたため」

伊織

「『中に入っていたハンターがエリア内に放出された』ですって!」?

あずさ

「『現在のハンターの数は5体』・・・どうしましょう・・・」

麗華

「宝箱はいつでも魔王の敵なのか・・・」所属ユニット名『魔王エンジェル』

舞がハンター入りのハズレの宝箱を開けたため、ハンターが1体放出された。

これにより逃走者達は、全部で5体のハンターから逃げる事になってしまった。

伊織

「冗談じゃないわ！まったたく！」

ミッションは人任せの伊織は悪態をつきながら隠れ場所を探す。

伊織

「いくらなんでも宝箱からハンターは・・・ん？」

伊織はいつの間にかドームに辿り着いていた。

すぐさま隠れ場所を探すために中に入るが、一番最初に目についたのは・・・

伊織

「げえっ、ハンター！？」

ハンターボックスとその足元にある爆弾だった。

見つけたまではよかったのだが、伊織はまだ道具を持っていないため、解体する事ができない。

伊織

「雪歩だったら解体する前に穴に埋めちゃいそうだけどね」

その発想はなかった。

一方、レインボータウンでは・・・

春香

「着いた〜！」

いち速く警察の元へ辿り着いた、春香。

春香

「あれ？確か、よく876プロの近くにいた・・・」

夢子

「桜井夢子よ。私も事件に巻き込まれて大変だったのよ」

春香

「そうなんだ・・・あ！？記者の善永さんだ！」

善永刑事

「私は刑事です」

春香

「あ、あれ？（のうの）」

そんな会話をする春香に、一つの存在が近づく。

「ここね・・・」

千早だ。

春香

「あ、千早ちゃんもミッションやるの？」

千早

「・・・本当は隠れてるつもりだったんだけどね。でも、私の近くの逃走者が二人も捕まって、黙っていられる訳がないわ！」

くらら・・・

「はーはー..」

響もようやく警察の元へ辿り着いた。

響

「自分もミッションやるぞー！」

千早

「我那覇さん・・・これで三人ね」

春香

「という事は・・・」

響

「これでミッションクリアだ！やったね！」

全ての爆弾を解体できれば3体のハンター放出を阻止する事ができる。

春香

「刑事さん！道具ください！」

爆弾は全部で三つ。

そしてここに居る逃走者も三人。

三人でそれぞれ違う場所の爆弾を解体しに行けば、ハンターに見つからない限りミッションクリアは確実。

・・・と思われた。

善永刑事

「どの道具が欲しいの？」

春香

「……………」

善永刑事

「爆弾を解体するには、適切な道具を使って、適切な手順で作業を行う事が必要なのよ」

響

「そつえば、いろんな道具がいっぱいあるな」

千早

「でも私達、どの道具を使えばいいかなんて分からないわ……」

善永刑事

「困ったわね……せめて、爆弾の写真でもあればどの道具を使えば良いのか分かるんだけど」

爆弾の解体には適切な手順だけでなく、爆弾ごとに適切な道具を使わなくてはならない。

もし使う道具と手順を間違えたら最後、爆弾はすぐに爆発し、その場でハンターが放出されてしまう。

善永刑事は仕掛けられた爆弾の構造を知らないため、適切な道具を
確実にもらうには、携帯のカメラで撮った爆弾の写真を見せなけれ
ばならない。

千早

「・・・くっ！これじゃ時間に関に合わないかもしれないわ！」

春香

「あー、そういえば最近はそういうミッションあるよねー（テンシ
ヨンのハートが1個になった）」

響

「じゃー自分が写真撮って来るぞ」

千早

「え？大丈夫なの？」

響

「なーに、ちょっと行って戻って来るだけじゃん。大丈夫、間に合
うさー！」

そう言い残し、響は爆弾があるドームを目指して走り出す。
春香と千早はその切り替えの早さに苦笑い。

春香

「どっしどっしっ？」

千早

「・・・我那覇さんが戻って来るまで隠れていきましょう。ハンターに捕まれば終わりなのは同じだから」

たとえミッションをクリアしたとしても、捕まれば賞金はゼロ。

隠れようとする二人の近くに、別の逃走者が居た。

真

「・・・なるほど、爆弾の写真が必要なのか」

真はすぐさま、ミッシング・ムーン・ガーデンに居るはずのPに電話をかける。

真

「もしもし、プロデューサー」

P

「お、真か。今ミッションに向かっている所なんだが、どうした？」

真

「今すぐ爆弾の写真を撮ってメールでこっちに送ってください！」

P

「>」
『』

真

「なんか、道具をもらうには爆弾の写真が必要みたいなんです」

P

『ああ、メールにない事をやらされるパターンか。わかった、任せろ！（プツン）』

真

「一応、美希にも伝えておくか」

真は美希に連絡し、同じ事を伝えた。

美希

『美希に任せておけば安心なの！』

真

「ああ、頼むよ」

電話を切り、その場で待つ事にした。

貴音

「・・・面妖な」

貴音は一足先にその大聖堂に到着し、そこにある鮮やかな色のステンドグラスの窓に見とれていた。

爆弾とハンターボックスも見つけていたが、道具がないので放置されている。

貴音

「いつまでもここにいる訳にはいきません。しかし、今から間に合うかどうか・・・」

レインボータウンへ向かうか迷う、謎のアイドル・・・

律子

「あつた！」

自分にはミッションをやるだけの体力はないと判断し、隠れ場所を探していた律子は、宝箱を発見した。

律子

「せめてこの中身で手助けしてやらないと。もうハズレはないし」

パカッ

律子

「何かな、これ？モニターに見えるけど」

律子がモニターのスイッチを入れると、エリア内のどこかが映し出されている。画面の下の矢印ボタンを押すと違う画像に切り替わり、16回で最初に戻った。

律子が手に入れたモニターは、エリア内の16ヶ所に設置された監視カメラの映像を見るためのもの。

これにより、現在地から遠くの場所の様子を探る事ができる。計算高い律子にはピッタリなアイテムといえよう。

さっそく律子は二つのカメラに映っていたPとハンターを発見。

宝箱に入っていた、監視カメラの位置が記された地図の番号とモニターの番号を照らし合わせる。

律子

「この場所……！プロデューサーが危ない！」

P

「もしもし、律子か？」

律子

『プロデューサー、早く逃げてください！ハンターが近くに……』

P

「え……!?」

ハンター

「!」

見つかった……

P

「マ、マズイ!」

美希

「あ、ハニーが!」

美希はもうすぐ大聖堂に着くのだが、ハンターに追われるPを発見し、立ち往生する。

Pは一心不乱にハンターから逃げ続けるが、距離は縮まる一方。

あと3メートル・・・

P

「のわっっ！」

ポント

プロデューサー 確保

残り14人

ゲーム残り時間

67:53 / ¥142600

ミッション終了まで

7:53

P

「くっそっ、捕まったく！俺ってカッコ悪いプロデューサーだぜ・・・

」

美希

「あゝ、ハニー捕まっちゃったの」

絵理

「『ミッシング・ムーン・ガーデン東部にて、』」

千早

「嘘！？プロデューサー捕まった・・・！？」

響

「『プロデューサー確保』・・・これは余計に急がないとだ！」

律子

「間に合わなかった・・・プロデューサー、ごめんなさい・・・」

く 牢獄DEトークく

やよい

「プロデューサー確保く！」

小鳥

「えー！」

涼

「結構捕まるの速くない！？・・・あ、舞さんお帰り〜」

舞

「うっ、まさか娘より先に捕まるとは」

やよい

「舞さんでも捕まっちゃうなんて・・・」

舞

「いや、普通に逃げる自信はあったわ！問題はハンターが居たのが宝箱の中だったって事よ！しかも体育座りで」

小鳥

「それは災難でしたね・・・」

舞

「あ〜、お宅の雪歩にスコップ借りて穴掘りしたいぐらい悔しいわ・・・」

〜牢獄DEトーク終わり〜

亜美

「爆弾みつけ」

ミッションに向かう気のない亜美だったが、城に隠れようとした所で爆弾を発見した。

亜美

「そ　だ！はるるんに頼んでみよ」

ブルルルル・・・

春香

「あれ、亜美からだ。もしもし？」

亜美

『はるるーん、ミッションやってる〜？』

春香

「やってるけど、どうかしたの？」

亜美

『んっふっふ　　亜美ねー、お城で爆弾見つけちゃった』

春香

「ホントに！？じゃあ、早く爆弾の写真撮ってこっちに送って！」

亜美
『いいよ』

理由も聞かず、亜美は爆弾の写真を撮影し、春香に送る準備をする。

亜美
「そうしゅん」

プリリップリリッ

春香
「来た！」

千早
「？」

春香はすぐさま善永刑事に写真を見せる。

善永刑事
「全て白いコード……それならこれを使って」

渡されたのは、背中に背負うホース付きのボンベとペンチ、説明書。善永刑事によれば、この爆弾はダミーのコードを隠すためにコードの色を全て白色にしているのだという。そのため、ボンベの冷却ガスで爆弾を凍結させてから全てのコードを切れば、この爆弾を解体できる。

善永刑事

「それと、爆弾魔の写真と私の携帯の番号を渡しておくわ。この男を見かけたら連絡をお願い」

春香

「あ、はい！」

春香はボンベを背負い、千早に手を振りながら走り出す。

目指すは、パーフェクト・サン・パラダイスの古城。

春香、間に合うか！？

ゲーム残り時間

66:36 / ¥160800

残り14人

ミッション終了まで

6:36

迷走Mind(後書き)

真美

「兄ちゃああああああああああああああん!」

黒井

「……私はどうリアクションすればよいのかな?」

さあ?

序曲「MISSION 1 終了！」（前書き）

ファンは言っている・・・ここで死ぬ運命さだめではないと・・・

For 竜宮小町

From イブニングゼロ

あずさ

「死んだ訳ではないですよ」

まさやんぐPと竜宮小町の中の人カワイソス・・・

序曲〈MISSION1終了!〉

ゲーム残り時間

66:10 / ¥166000

ミッション終了まで

6:10

美希

「到着なのー!」

真の連絡を受け、ようやく大聖堂に辿り着いた美希。
そこには、貴音という先客がいた。

貴音

「美希ですか。道具は持って来ましたか?」

美希

「今は爆弾の写真が必要なの!道具もらうのにいるんだって」

貴音

「はて、そんな事、メールにありあしたか?」

疑問符を浮かべる貴音をよそに、美希は写真を撮影した。

美希

「送信完了なの!」

貴音

「それで、これからどうしますか?」

美希

「真くんからバトンタッチしてもらうの」

貴音

「では、その後はわたくしにバトンタッチです。解体はわたくしにお任せを」

美希

「じゃあお願いしていい?」

同時刻、ドームにて。

響

「やっと着いたぞ・・・あ、伊織」

伊織

「あんたもミッションやってるの？」

響

「まあね。伊織は・・・やる気ないみたいだな」

伊織

「だって、捕まったら全部パーになるんでしょ！？危なっかしくてやってられないわ！」

響

「そう言う割にはちゃんと爆弾見つけてるんだな」

伊織

「た、たまたまよ！」

響

「ふーん。さて、爆弾の写真撮るか」

伊織

「え？何で？」

逃走者説明中・・・

伊織

「うっわ、余計に行く気なくすわ」

響

「さて、写真も撮ったし、自分は何も」

伊織

「どうして」

響

「お巡りさんの所に居る春香と千早に写真を届けに行くのよ」

春香がすでに別の場所の爆弾の解体に向かっている事を、響はまだ知らない。

伊織

「……メールで送ればいいじゃん」

響

「……あ」

プリンプリン

真・千早

「よしっ！」

真は美希から、千早は響から送られてきた爆弾の写真を見てガッツポーズ。

二人はすぐさま善永刑事にそれを見せ、道具と爆弾魔の写真を入手した。

千早

「間に合うかしら・・・いや、行くわ！」

真

「よし、ボクも急ぐぞ」

千早はドームへ、真は大聖堂へと急ぐ。

ちなみに、千早の道具はペンチとプラスチックの板で、真はペンチとドライバーだった。

二つの爆弾の解体方法は5本のコードを順番に切るだけなのだが、大聖堂のものは最初にドライバーで外カバーを外す必要があるであり、ドームの爆弾はコードを切る前に、通電部分にプラスチックの板をはさんで電気を遮断してからでなければならぬようだ。

雪歩

「えっほ、えっほ・・・」

ハンターに怯えながらも、レインボータウンへ向かう雪歩。まさか彼女がミッションに挑もうとは誰も思わないだろう。

雪歩

「やっぱり参加するからには色々頑張らないと・・・」

パーフェクト・サン・パラダイスの広い道を、少しずつ進む。

しかし、その前方約20メートルくらいから・・・

雪歩

「伊織ちゃんや真ちゃんはミッション行ってるのかな・・・!?!」

ハンター

「!」

雪歩

「・・・いいいいいいいいいいいいいいいいいいいいああああああああああああ

「!?」

恐怖に歪んだ表情でハンターから逃げ出す雪歩。
以外にも足が速い。

ハンター

「?」

メリーゴーランドの影に隠れ、うまく撒いたようだ。

雪歩

「はあ、はあ……やっぱりムリですううう……」

ミッションに向かう事を、諦めた……

春香

「危ない危ない……今雪歩が追いかけてたよ」

近くでその様子を見ていた春香。
ハンターが通り過ぎるのを確認し、重いボンベを背負いながら城へ
向かう。

美希

「真くん、あとは任せてなの！」

真

「・・・ごめん、頼む！」

真から道具を受け取り、大聖堂を目指す美希。

千早

「ハンターは・・・いないみたいね」

少しずつではあるが、千早も確実にドームに近づいていた。

ゲーム残り時間

65:00 / ¥180000

ミッション終了まで

5:00

亜美

「はるるーん！こっちだよー！」

春香

「あ、亜美！やっと着いたよ……」

へトへトになりつつ、春香は亜美に爆弾の場所まで案内される。

爆弾とハンターボックスは城のホールの中央にあった。

亜美

「これこれ」

春香

「えーと、まずは冷却ガスで……それっ！」

ブシューッ！

亜美

「わ！なんか出た！」

ボタンを押すとホースから冷却ガスが噴射され、爆弾は白く凍り付いていく。

春香

「わ、ホントに凍った」

春香はペンチを取り出し、不安そうにしている亜美の視線を受けながらコードを一本ずつ切っていく。

春香

「最後の一本！」

亜美

「よし、切っちゃえ！」

春香

「切りまーす！」

パチン

爆弾のタイマーが完全に停止し、二度と動く事はなくなった。

ミッションクリア

春香

「やりましたっ！」

亜美

「さっすがはるるん！」

春香の活躍によってお城の爆弾の解体に成功。
これにより、ハンター1体の放出が阻止された。

残すは、大聖堂とドームの二カ所。

その頃、大聖堂では・・・

美希

「ただいま」

真からバトンタッチした美希が、貴音の元に到着。

貴音

「さあ、道具をこちらへ」

美希

「じゃあ、美希はハンターが来ないか見張ってるね」

解体を始めた貴音を背に、大聖堂の外へ出ようとする。

そこに黒い影が迫る・・・

美希

「居るの・・・」

ハンター

「・・・」

ハンターは気づいていないが、確実に近づいている。

このままでは、二人まとめて確保されるのを待つばかり。

追い込まれた美希は、一か八かの勝負に出る！

美希

「こっちなー！」

ハンター

「！」

美希の確保へ向かうハンター。
追われる美希はなるべく大聖堂からハンターを引き離そうと遠くへ逃げる。

美希

(もっと、もっと遠くへ……！)

なんとか角を見つけ、ハンターの視界から消えようとするが……

ハンター

「！」

美希

「うそ〜ん!?!」

逃げた先にも、ハンター……

美希

「もうダメなの〜!」

ポンッ

星井美希 確保

残り13人

ゲーム残り時間

63:07 / ¥202600

ミッション終了まで

3:07

美希

「終わっちゃったの……うう、おにぎりがしょっぱいよう……
しくしく」

ちなみに、軽食や小道具などの持ち込みは特に規制されていない。

美希

「東さんもゆで卵持ち込んでたし」

貴音

「『星井美希確保』……貴女の犠牲、決して無駄にはいたしませんわ」

そう言いつつ、貴音は最後のコードに手をかけた。

貴音

「これで、最後です」

パチン

ミッションクリア

貴音

「これで一安心で・・・！」

遠くにハンターを見つけたようだ。

ハンターは神出鬼没。

どこから現れるかは誰にも分からない。

ハンターは貴音がいる大聖堂へ入り込む。

解放されたエリアにはハンターも当然入って来る。

ハンター

「？」

貴音はハンターが侵入する前に裏口から脱出し、開いた裏口の扉と壁の隙間に隠れた。

ハンターもそのまま裏口から出ていくが、貴音には気づいていない。

貴音

「油断大敵ですわね」

逃走者に安息などない。

一方、真は美希に道具を渡した後、再び隠れ場所を探そうとこの近くを探索していた。

真

「美希捕まったのか。これは1体か2体の放出は覚悟しないと」

大聖堂の爆弾は貴音がすでに解体している事を真はまだ知らない。

真が双眼鏡で辺りを見回してみると、宝箱を探す麗華とまだ迷子になっているあずさの姿を発見した。

真

「あずささん、相変わらずだなあ・・・ん？」

ふと目についたのは、ミッシング・ムーン・ガーデンの南部にある

白い塔。

真

「んんんんん？」

その頂上に、赤いベストの男の姿・・・

真は善永刑事からもらった写真を取り出す。

真

「あ~~~~~！こいつだ！」

その男こそ、ここに爆弾を仕掛けた爆弾魔、ジャグラーその人だった。

困惑する真。

真

「うんんん・・・わざわざ写真と刑事さんの携帯の番号をもらったんだから、通報した方がいいのかな？」

真はとりあえず通報する事にした。

真

「もしもし、刑事さん？ボク、爆弾魔みたいな人見つけましたよ！
・・・はい、白い塔がある所です！」

通報を終え、再び動き出す。

真

(でも、通報する意味あったのかな・・・ま、いつか)

ゲーム残り時間

61:30 / ¥222000

ミッション終了まで

1:30

伊織

「千早！早く早く！」

千早

「水瀬さん!？」

響

「あと一分半だぞー！」

遂に千早がドームに到着。

千早

「これね。さっそく始めるわ」

まずは通電部分に板を挟む。

そしてコードを順番に切っていく。

ハラハラしながら見守る二人の前で、黙々と作業を進める千早。

伊織

「あと20秒よ！」

千早

「大丈夫。これで最後だから」

響

「切れ切れー！」

そして、最後の1本が、

パチン・・・

切られた・・・

ミッションクリア

三人

「・・・・・・・・」

伊織

「・・・終わった？」

千早

「・・・・・・・・ええ」

響

「そつえば、他の所は解体できたのかな・・・？」

ジャグラー

「フッ、最近のアイドルは度胸があるじゃないか」

この爆弾事件を起こした犯人、ジャグラーと呼ばれる爆弾魔は、時間になっても爆発がない事に少し驚いている。

善永刑事

「そうね。それに比べたら、お前はただの臆病者だ」

ジャグラー

「あるいはそうかもしれない。私だって、自分の爆弾で死にたくはないからな」

ジャグラーはすでに、真の通報を受けて駆け付けた善永刑事達に逮捕され、頭にジャケットを、手錠をかけられた両手に布を被せられながら連行されていた。

その時、その存在は唐突に現れた。

？

「……………止まって」

刑事達

「!?!」

少し茶色がかった髪に赤と黒の服を着た少女が背を向けて立っていた。

その姿を見たジャグラーは開いた口が塞がらない状態になっている。

善永刑事

「いつの間に仲間を呼んだの!？」

ジャグラー

「ち、違う！俺は仲間なんて呼んだ覚えはない！むしろあいつは……」

？

「……ジャグラー、私はお前に興味はない。お前は金さえあれば誰にでもどんな爆弾だって作るからな」

善永刑事

「あなたは一体!？」

？

「私はこれを見てもらいたいよ、善永刑事」

見せられたのは、ビデオカメラの映像。

そこには、一部の警官が逃げ出そうとするジャグラーを追う警官を突然射殺する光景が映っていた。

夢子

「ちょっと、これって警察が脱獄を手引きしてたって事!？」

事情聴取のために一緒に連れて来られていた夢子にもはっきりと分かる事だった。

善永刑事

「なぜ警察が……」

ジャグラー

「答えは簡単だ……」

?

「警察内部に、奴らの内通者がいたって事」

善永刑事

「……やはり、奴らか」

?

「安心して。内通者は私が消した」

善永刑事

「なっ!?!」

ジャグラー

「気をつける。私が捕まった事が知られたら、奴らはすぐに動き出す。これはほんの序曲にすぎない」

そこにいた全ての者が沈黙した。

?

「うふふ、生きていたらまた逢いましょう・・・」

ボシューッ!

ジャグラー

「煙幕!?!」

善永刑事

「ゴホッ、ま、待て、ゲホッゲホッ」

夢子

「……………」

去る直前、煙の中に一瞬だけ見えた少女の顔。

それは夢子の見間違いなどではなかった。

そう、彼女は……

……『天海春香』にそっくりだった。

謎の存在

「……………」

その様子をモニターで見ていた謎の存在は、ジャグラーをズームアップする。

そして画面をスライドさせ、タッチした。

P R I Z E R A T E U P .

もうすぐゲーム時間は残り60分。ミッションの結果を伝えるメールが来る時間だ。

それと同時に、逃走者達のタイマーに異変が起きた。

ゲーム残り時間

59:59 / ¥240300

千早

「あ、あれ？」

響

「なんか、タイマーがおかしいぞ？」

伊織

「1秒300円になってる！」

ピリッピリッ

伊織

「あ、『ミッションの結果報告』だ」

く 牢獄

P

「『天海春香・四条貴音・如月千早の活躍により、3つの爆弾の解体に成功、ハンター放出を阻止した』！」

牢獄の逃走者達

「おお〜！」

やよい

「春香さんならやってくれると思ってました！」

愛

「さすが春香さん！つて、あれ？続きがある」

律子

「『さらに、菊地真の通報によって爆弾魔が逮捕された』え！？メルにこんな事あったっけ？」

真

「『これにより、ゲーム残り60分からの賞金単価が1秒300円に増額した』だって！？やっぱ通報して良かった……」

真の通報による爆弾魔ジャグラーの逮捕。

それと同時に、賞金増額という隠されたボーナスを手に入れた逃走者達。

賞金は1秒300円となり、逃走に成功すれば、最高賞金は132万円となる！

但し、捕まれば、ゼロ！

逃走劇は中盤戦に突入。

果たして、逃げ切る者は、現れるのか!?

ゲーム残り時間

59:24 / ¥250800

残り13人

序曲〈MISSION 1 終了! (後書き)

真美

「そんな役回りで大丈夫か？」

黒井

「大丈夫だ、問題ない」

「パンツポロリ事件」があったのにな？ (アイマスSP参照)

真美

「そんな役回りで大丈夫か？」

黒井

「一番いい台本を頼む」

ネットアイドル・サイネリアを追え！〜MISSION 2スタート！（前書き）

とりあえず一言だけ言っておく。てらしー頑張れ。

天ヶ瀬冬馬役の寺島さん

ネットアイドル・サイネリアを追え！〜MISSION2スタート！

ゲーム残り時間

58:53 / ¥260100

美希

「ただいま〜、ハニー」

P

「お帰り〜」

ミッション1の最中に確保された美希が牢獄に戻って来た。

やよい

「美希さんでも捕まっちゃうなんて・・・」

美希

「逃げられそうだと思ったのに、逃げた先にハンターが・・・」

涼

「あー、よくある」

舞

「あなたはまだマシな方よ！私なんて宝箱から（ry」

小鳥

「もう16回ぐらい聞きましたよ」

美希

「宝箱がトラウマになっちゃったのかな？」

その時、牢獄に近づく者がいた。

「あゝ、プロデューサーさんとみんなが居ました」

P

「あーあずささん！」

あずさ

「あら、プロデューサーさん。ここはどこでしょうか？」

小鳥

「どこって、観覧車の近くに設置された牢獄ですよ」

あずさ

「あら？さっきまで公園みたいな所に居たはずなのですが……」

一同

（絶対迷子になってたな、この人……）

律子

「あれ！？あずさん！？さっきまで塔の近くに居たのに……」

監視カメラのモニターで塔の近くでその姿を見つけていた律子は、いきなり牢獄近くに現れたあずさにただ驚いていた。

律子

「物理的にありえないと思うんだけど……！」

ハンター

「！」

前方から迫るハンターを見つけ、走り出す律子。

しかし、ハンターの標的は律子ではなく……

涼

「あー！」

P

「あずさん後ろ……！」

あずさ
「え？」

ポンッ

三浦あずさ 確保

残り12人

ゲーム残り時間

58:17 / ¥270900

一同
「……………」

あずさ

「うふふ、捕まってしまいました」

P

「少しは悔しかったらどうなんですか……」

貴音

「確保情報ですか……」

麗華

「『パーフェクト・サン・パラダイス北部・観覧車付近にて』、」

雪歩

「あずささん捕まった・・・!？」

伊織

「絶対捕まらなさそうだと思ってたのに・・・」

真

「さっきまでボクの双眼鏡で見える場所にいたのに・・・」

始まってから1ページと経たずに、しかも捕まるまで全くハンターに気づかないという、いかにもあずさらしい(?) 最期だった。

「やって来ちゃいまシタ、フォーチュナル・ファンタズマゴリア!

センパイはどこでしょうカ〜?」

ネットアイドル・サイネリア。

本名、鈴木彩音。

元々はネットアイドルだった水谷絵理を『センパイ』と呼び、時には現実での生活をサポートし、時には衝突し合う、悪友のような存在である。

今日は絵理がここに来ている事を早朝のファンのブログへのカキコミによって知ってやって来たのだ。

サイネリア

「センパイ? どこですか〜」

絵理を探すサイネリア。

しかし、見つかったのは……

サイネリア

「ヒヨ? 落とし物?」

茶色の革の財布だった。

男

「あ、すいませ〜ん」

サイネリア

「ほエ？」

男

「それ、友人の財布なんです」

サイネリア

「あ、そうなんデスカ」

男

「はい。もし良ければ、それを友人に届けてもらえませんか？ここのお土産屋でバイトをしているんです」

男は友人の写真を見せる。

サイネリア

「わっかりますタ〜」

サイネリアは笑顔で答え、財布を届けに行った。

男

「やっぱネットアイドルってバカだな。財布落としたままバイト行

く奴が居るか、普通？」

プルルルルル

男

「・・・俺だ」

電話の声

『もうすぐブツの受け渡しの間だ、バークマン』

バークマン

「ああ」

その様子を、春香そっくりのあの少女が見ていた。

ヴーーン（携帯のバイブレーター）

善永刑事

「非通知？もしもし？」

『私よ、刑事さん』

善永刑事

「あ、あなたは！」

？

『あなたが追っている死の商人、バークマンがここで麻薬の取引をしようとしているわ』

善永刑事

「何ですって!？」

バークマン

「そいつは今ブツが入った財布をあなたに届けようとそっちへ向かってるぜ。本当は爆弾騒ぎの間に直接済ませようと思ったのに、あのマヌケ野郎、いらん事しやがって」

電話の声

『・・・ところで、その女はどうするんだ？こちらの顔が知られたようだが』

バークマン

「なーに、どうにでもなるさ。どっかに売り飛ばしちまうか、殺^{バラ}して内臓を金にするか・・・」

それと同時に、取引相手が居るお土産屋の内側に、『賞金リセット装置』と書かれた謎の機械が転送され、そのスイッチがピアノ線でお土産屋の扉と繋がられた。

ゲーム残り時間

57:30 / ¥285000

亜美

「網鉄砲があるから安心〜 『亜美の網鉄砲』、なんてね〜、ん
っふっふ〜」

ピリッピリッ

・・・メールだ。

亜美

「わ！『ミッション2』来た！」

愛

「『現在、フォーチュナル・ファンタズマゴリア内にはサイネリアが遊びに来ている』絵理ちゃんが言ったあの人か」

貴音

「『彼女は麻薬の密売人に騙されて麻薬入りの財布を運ばされている』爆弾の次は麻薬ですか・・・」

麗華

「『ゲーム残り45分にサイネリアが密売人の取引相手が居る、』」

真

「『ワンダリング・スター・スペースにあるお土産屋に辿り着くと、』」

響

「『『全員の賞金が0円にリセットされ、賞金単価も1秒200円に』」

戻る』え？どついつ事？」

千早

「『阻止するには、その前にサイネリアを捕まえなければならない』

」

絵理

「『但し、そのためには宝箱の中にある巨大手錠が必要だ』？もう、しょうがないなあ、サイネリアは？」

MISSION 2

賞金リセットを阻止せよ！

麻薬の密売人に騙され、麻薬を取引相手の居るお土産屋に運んでいくサイネリア。

彼女がゲーム残り45分にお土産屋に辿り着くと、店内にある賞金リセット装置が起動し、全員の賞金がリセットされ0円からの再スタートとなる。

阻止するには、宝箱に入っている巨大手錠を使い、時間内にサイネリアを捕まえなければならない！

春香

「巨大手錠って・・・」

雪歩

「ま、まさか!?!」

そう、春香と雪歩が序盤で見つけたアレである。

春香

「よし、ちょっと一休みしたら行くこつ」

亜美

「がんばれ」

雪歩

「い、行ってみようかな・・・」

千早

「ひとまず、巨大手錠を探しましょう」

響

「自分も一緒に行くぞ!」

真

「よし、ボクもまた事件解決に向けて頑張るぞ！」

絵理

「私が、やる？」

巨大手錠の場所を知っている春香と雪歩を初めとした六人の逃走者が、ミッションへ向かう。

しかし、巨大手錠は約15キロの重さ。

さらに、このような目立つ物を持っていれば、エリア内の5体のハンターに見つかるリスクも高まる！

果たして、サイネリアを捕まえ、賞金リセットを阻止する事はできるのか！？

ゲーム残り時間

56 : 51 / ¥296700

-

残り12人

ミッション終了まで

1
1
:
5
1

-

ネットアイドル・サイネリアを追え！〜MISSION 2スタート！（後書き）

黒井

「寺島さんが声の届かない迷路から出られるのはいつなのだろうか・
・・」

真美・作者

「誰がうまい事言えと」

頑張れ、全国の寺島さん！

焦燥感×疲労〓確保(前書き)

箱m@sは値段が高すぎると思う今日この頃。

Wiiの高いソフトはせいぜい6500円くらいなのじゃ。

焦燥感×疲労＝確保

突如として始まった第二のミッション。

宝箱から入手した巨大手錠を使ってサイネリアを捕まえなければ、全員の賞金が0円となり、せっかく真が増やした賞金単価も元に戻ってしまふ。

ちなみに、ミッション失敗の場合の逃走成功賞金は最高で54万円となる。

何度もしつこいようだが、捕まれば、ゼロ。

ゲーム残り時間

56:39 / ¥3000300

ミッション終了まで

11:39

麗華

「やっと30万か」

ミッションに興味のない様子の麗華は、宝箱さがしに没頭していた。

麗華

「・・・お？」

ワンダリング・スター・スペースの最南端で、遂に宝箱を発見。

麗華

「うふふふ・・・」

悪そうな顔で宝箱を開ける。

そして最初に目についたのは、『激レアアイテム』と書かれた紙だった。

麗華

「よっしやあああ！って、何だこれ？」

中身は、鉄の箱に何かのスイッチが取り付けられた謎の機械。スイッチは両手で押し込むタイプの棒の形のものだった。試しに押ししてみたが、反応がない。

麗華

「役に立ちそうにないけど、一応頂くか・・・」

その頃、巨大手錠の場所を知る春香と雪歩はそれが入っている宝箱を目指していた。

雪歩

「あ、あつた〜！」

先に到着した雪歩。

宝箱の中の巨大手錠は放置されたままになっていた。当然、その中の紙も。

158

千早

「激レアアイテムはミッションのためのアイテムに違いがないよね」

響

「みただいな。ところで、なんで伊織もいつしよに居るの？ミッションは行かないつもりじゃ？」

伊織

「なんとなく空気読まないといけない気が・・・」

乗り気ではなさそうな伊織だったが、千早と響の勢いに押されて参加するようだ。

そんな三人が居る黄色の大地に、恐怖が迫る・・・

千早

「こつちから行った方がいいかしら？」

伊織

「いくら安全な道を行っても、手錠が見つからないんじゃないんじゃ意味がないんじゃない・・・」

響

「は、ハンターだ！」

ハンター

「！」

見つかった・・・

伊織

「なんでこんな時に限ってこつくなるのよー！」

千早

「くっ！」

響

「と、とりあえず自分は逃げるぞー！」

バラバラに逃げる三人。

狙われたのは……

千早

「なっ、こっち来た！」

千早だ……

なんとかハンターの追跡から逃れようと、遮蔽物の多い場所へと逃げ、何度も角を曲がる。

ハンター

「？」

うまく撒いたようだ。

千早

「はあ、はあ、はあ……思ったよりつらい……」

息切れを起こし、物陰で汗を拭く。

千早

「とにかく、なんとしても手錠を見つけないと」

深く深呼吸し、心を落ち着かせる。

そして、巨大手錠を探すために足を進め、曲がり角の近くへ差し掛かる。

……ぬっ。

ハンター

「！」

千早
「!?!」

ポンツ

如月千早 確保

残り11人

ゲーム残り時間

54:57 / ¥330900

ミッション終了まで

9:57

曲がり角から突然現れたハンターに千早が気づいた時、その距離はわずか40センチだった……

千早

「嘘……こんな簡単に……悔しいっ……!」

翼の折れた、蒼い鳥……

P

「千早確保ー！」

牢獄の逃走者達

「ええー！？」

あずさ

「あらあら・・・」

涼

「やっぱり、捕まるペース早いよ！」

律子

「まだ半分も終わってないのに、これはマズイわ」

真

「千早捕まったか・・・」

絵理

「私達、結構ピンチだ？」

伊織

「や、やっぱり無理かも・・・」

その頃、春香もようやく雪歩の元へ到着。

雪歩

「春香ちゃん、こっち！」

春香

「ふう、さっきも重い物持ってたからもうへトへトだよ」

雪歩

「で、でも頑張らないと」

春香

「そつだね。行こう！」

15キロの巨大手錠を二人で抱え、ひとまずお土産屋を目指す。

が、物事はいつでもうまく運ぶとは限らない・・・

ハンター
「！」

雪歩

「このためのアイテムだったん……って、ハンターきたああああ
！」

春香

「え〜！そんな〜！」

巨大手錠を地面に置いてハンターから逃げようとする二人。

しかし、ハンターの脚力に為す術もなく追い詰められる……

と思ったその時！

ズルツ！

ハンター
「！？」

どんがらがっしゃーん！

突然、ハンターが転倒。

どうやらマナーの悪い客がポイ捨てしたお菓子の袋を踏み付けて転んだらしい。

ものすごく今更だが、この逃走劇は客の多いお昼時に行われているのだ。

二人はチャンスとばかりにスピードを上げ、ハンターとの距離を広げる。

ハンターが立ち上がった時には、途中ですぐに隠れれば十分逃げ切れる距離になっていた。

ところが・・・

春香

「う、うわあっ!?!」

どんがらがっしゃーん!

コケた・・・

春香

「うっ・・・」

ポンッ

天海春香 確保

残り10人

ゲーム残り時間

53:34 / ¥355800

ミッション終了まで

8:34

春香

「もっ、私のバカ〜!」

765プロのセンターポジション、あえなく撃沈。

雪歩

「どっしりぶっぶっ……春香ちゃん捕まっちゃった……」

真

「『パーフェクト・サン・パラダイス南西部にて、』」

愛

「春香さん捕まった〜！」

律子

「ますます厳しくなってきたわね・・・」

春香が捕まる直前、置きっ放しになった巨大手錠に近づく人影が。

「あ、見つけた？」

水谷絵理だ・・・

絵理

「やっぱり、重いからもう一人必要？」

巨大手錠は約15キロ。女性の腕力で持ち上げるのは容易ではない。

そこに・・・

雪歩

「あ、絵理ちゃん！」

ハンターから逃れた雪歩が戻って来た。

絵理

「ちょうど良かった？手錠運び手伝ってください？」

雪歩

「うん、私もちょうど行こうと思ってたんだ」

二人はなんとか15キロの巨大手錠を持ち上げ、お土産屋を目指す。

サイネリア

「お財布届ければお礼の一割もらえるカモ？」

サイネリアとお土産屋の距離は、約120メートル。

残り45分までに彼女を捕まえられなければ、全員の賞金が0円にリセットされてしまう。

果たして、絵理と雪歩は、間に合うのか!?

ゲーム残り時間

51:47/¥387900

残り10人

ミッション終了まで

6:47

焦燥感×疲労〓確保（後書き）

黒井

「高いのか？」

真美

「十分高いよ！」

961プロは総資金が9億6100万円だから、8800円のアイマス2が約109204本買える計算になります。

黒井

「そんなにいらんわ！」

MISSION 2終了！悪夢へのカウントダウン（前書き）

いよいよアイドルマスター2が発売！

9・18以降、炎上し続けてきたステージに再びスポットライトが
当たる事はあるのだろうか！？

それは、全国のプロデューサーに掛かっている！

MISSION 2 終了！ 悪夢へのカウントダウン

ゲーム残り時間

51:12 / ¥398400

ミッション終了まで

6:12

伊織

「あれは!?!」

ハンターに追われ、千早と響と別れた伊織が見つけたのは、最後の宝箱。

期待に胸を膨らませるが、残念ながら巨大手錠はすでに絵理と雪歩が持ち出している。

伊織

「なんだ、手錠じゃないのか・・・」

代わりに宝箱に入っていたのは、一枚のチケット。

このチケットはレインボータウンのセグウェイ貸し出し場のチケット。
これを持っていけば、セグウェイに乗ってハンターから逃げる事ができる。
但し、セグウェイのバッテリーには限りがあり、なくなると当然動かなくなる。

伊織

「せっかく手に入れたんだから、使わないと損よね」

伊織はミッションを他の逃走者に任せ、セグウェイ乗り場を目指す事にした。

一方、お土産屋には律子が辿り着いていた。
その目には、店内にある賞金リセット装置が映っている。

律子

「ここね。やっぱりサイネリアを直接探すよりここで待ってる方が良さそうだわ」

サイネリアが最後にやって来るのがこの場所。
到着を許せば、0円からの再スタートになる。

律子

「といっても、巨大手錠は雪歩が持つてるみたいなんだけどね」

相変わらずモニターは有効に使われている様子。

その時、黒い影がモニターに映る・・・

律子

「ちょっと、こんなすぐ近くに・・・って、来た!」

ハンター

「!」

見つけた・・・

律子

「こ、これはマズイわ」

体力がないと自分で言ってる割には以外と足が速い。
しかし、ハンターの脚力から逃げ切る事は容易ではない。

春香

「ただいま〜」

千早

「ただいま戻りました」

律子が逃げる先にある牢獄に、確保された春香と千早が帰還。

P

「まさか二人が捕まるとはな・・・」

春香

「うう〜、あそこで転ぶなんて・・・」

千早

「いくらなんでもいきなりあんな近くに現れたら逃げようがない・・・」

二人が牢獄に入ろうとした時、後ろにハンターに追われる律子の姿が。

小鳥

「あ、律子さんが！」

美希

「律子……さーん！頑張つてなのー！」

牢獄の逃走者達の声援もむなしく、距離は縮まるばかり……

律子

「っ、捕まるっ！」

あと10メートルに迫つたその時！

「律っちゃん、危ない！」

パン！

ハンター

「！？」

亜美

「大成功っ！さ、早く逃げよー！」

律子

「あ、亜美！？なんだか知らないけど助かったわ……」

ハンターの右横から亜美が姿を現わし、一度だけハンターを止める事ができる網鉄砲を発射。ハンターに被せる事に成功した。

ハンターはぎこちない動作で網から抜け出そうと手を動かす。

そして網を振り払った時にはすでに二人は逃げた後。周囲を見渡し、再び逃走者の搜索へ向かった。

く牢獄DEトークく

やよい

「そういえば、今日の春香さんのリボン、いつもと違つみたいですよ」

あずさ

「あら、本当だわ」

いつものピンクのリボンではなく、花の飾りがついた赤いリボンだった。

春香

「えへへ、ファンからのプレゼントなんですよ」

美希

「いいな、美希も欲しいの。『星井』美希だけにねっ」

一同

(ギャグ・・・!?)

千早

「ほ、欲しい・・・星井美希だけに・・・くっくっくっ・・・あっはっはっは！」

涼

「あー！千早さんの腹筋が崩壊したー！」

P

「そっいえば、千早って笑い上戸なんだった・・・」

千早

「お、お腹がよじれる・・・くっ・・・きゃははははは・・・」

春香

「千早ちゃん！すっかりして、千早ちゃん！」

く 牢獄DEトーク終わりく

真

「うっん、見つからない・・・」

響

「巨大手錠がどうか言う前に、宝箱が全然見つからないぞー！」

巨大手錠はすでに雪歩と絵理が持ち出している事を知らない真と響。二人が巨大手錠を探している中、誰も確保されたりしないまま、およそ3分半が過ぎた。

ゲーム残り時間

47:30 / ¥465000

ミッション終了まで

2:30

雪歩

「あ、あの人は！」

雪歩の視線の先には、やや薄い金髪にゴスロリっぽい服装の少女が。

絵理

「サイネリア？」

雪歩

「は、早く早く！」

遂にサイネリアを発見した二人。

彼女を巨大手錠で捕まえれば、賞金リセットを阻止する事ができる！

ゲーム残り時間

47:00 / ¥474000

ミッション終了まで

2:00

時間にはたっぷり余裕がある。これも最初に巨大手錠を見つけていた雪歩のおかげだろう。

ミッションクリアは、もう目の前だ。

絵理

「サイネリア？」

サイネリア

「あ！センパイ！やっと見つまシタ〜！って、あれ？何持ってるんデスカ？」

雪歩

「え、え〜つと・・・」

絵理

「ゴメンね？」

サイネリア

「？」

雪歩・絵理

「せーのっ！」

ガシャーーン！

サイネリア

「うわ〜っ！なんデスカ〜！？」

ミッションクリア

巨大手錠に捕らえられ、サイネリアは15キロの重さに身動きがとれなくなる。

雪歩

「これでクリア……だよな？それじゃ、私行くね」

絵理

「またね？」

ミッションを終えた二人は、別れて隠れ場所を探し始めた……

サイネリア

「センパ〜イ、置いていかないで〜！」

麗華

「もっとお宝ないかな〜、っ」と

ジュジュジュジュジュ

麗華

「お？『ミッションの結果』だ」

真

「『萩原雪歩、水谷絵理の活躍により、サイネリアを捕まえる事に成功』」

律子

「『賞金リセットを阻止した』・・・雪歩、やるじゃないの！」

愛

「絵理ちゃん、やったー！　　）>ワ<（　　」q

雪歩と絵理の活躍により、賞金リセットを免れた逃走者達。

しかし、エリア内には5体のハンター。
捕まれば、賞金はゼロ。

響

「ミッション終了まで1分以上あったぞ。これは楽勝だったかも」

ホッと一息つく沖縄県民の背後に、黒い影・・・

響

「自分、体力には自信があるからあと45分くらい、なんくる・・・
っ！」

ハンター

「！」

ハンターに気づき、全速力で走り出す響。

体力には自信ありと言つが、それと逃げられるかどうかはあまり関係ない。

どちらにせよ、逃げ切るのは容易ではない事に変わりはないからだ。

少しずつだが、響とハンターの距離が縮まっていっく・・・

響

「あがー！」

ポンッ

我那覇響 確保

残り9人

ゲーム残り時間

44:44 / ¥514800

響

「・・・全然・・・なんくるならなかった！しかも捕まった時の残り時間がすっごく不吉だ！」

沖縄の熱い太陽が、あっけなく沈んだ・・・

その頃、サイネリアを騙して麻薬を運ばせたバークマンはブツの受け取りの連絡を待っていた。

バークマン

「さーで、そろそろ連絡が来る頃だ」

笑いを浮かべる死の商人。

しかし、来たのは・・・

バークマン

「げえっ、警察!？」

サイネリア

「この人デス!私にお財布を届けるように言ったのは!」

善永刑事

「やっぱりお前か、バークマン!麻薬取締法違反の容疑で逮捕する
!」

バークマンは逃げようとするが、待機していた警官達に囲まれあっ
けなく御用。

その様子を、あの謎の少女のが高所から眺めていた。

謎の少女

「・・・おかしい。麻薬の密売ならばもっとバレないように巧妙に隠すはず。妙にあっさりしすぎている・・・」

その時、少女が目を向けた空の向こうに、小さな黒い点が見えた。

謎の少女

「あれは！？やはり爆弾騒ぎも麻薬密売も囿か！」

苦虫を噛み潰したような表情で、奴らの名を口にする。

少女

「とつとつ動き出したか、『ラグナロク』！」

男

「ジャグラもバークマンも逮捕されたようです」

ボスっぽい男

「ふん、奴らは所詮、金で雇った捨て駒よ。我等の目的はただ一つ」

男

「はい。ここに隠されたあれを手に入れれば、我々の天下となるでしょう」

ボス

「ふふふ、あんな遊びのためにあれを使うなどもつたいない。我等が有効に使ってやろうぞ」

ボスはヘリコプターの中で、遙か先に見えるフォーチュナル・ファンタズマゴリアを見つめている。

ボス

「貴様らに邪魔はさせんぞ、トリプルエスSSSの犬共！あのテクノロジーは・・・

『ヴァニティ・リアクター』は、我々『ラグナロク』のものだあー
ーっ！」

謎の存在

「……………」

フォーチュナル・ファンタズマゴリアに近づく複数のヘリコプターをモニター越しに見つめている謎の存在は、ボスの言葉に少し啞然としていた。

落ち着きを取り戻した謎の存在は画面を縦にスライドさせ、タッチした。

GAME INTERMISSION .

すると、エリア内の全てのハンターの動きが完全に停止した。

おらに……………」

ゲーム残り時間

43:57 / ¥528900

《TIMER STOPPED》

雪歩

「あ、あれ？タイマーが！？」

その異変は逃走者達を混乱に陥れる。

時間もハンターも動かなくなってしまったこの状況で、逃走者達は何をすればいいのか分からなくなってしまっていた。

その時だった……

バラバラバラバラ……

律子

「な、何!？」

亜美

「ヘリコプターだ！」

愛

「い、いったい……」

麗華

「何が始まるっていうんだ……!？」

貴音

「なんと面妖な……」

突然、逃走者達の上空に現れた複数のヘリコプター。

一体、何が起きているのか……

逃走劇は、どうなってしまうのか!?

残りの逃走者

萩原雪歩 菊地真 秋月律子 水瀬伊織 双美亜美 四条貴音 日
高愛 水谷絵理 東豪寺麗華

残り9人

MISSION 2 終了！悪夢へのカウントダウン（後書き）

真美

「ファンの兄ちゃん姉ちゃん！真美のプロデューサーよろしくね

」

黒井

「我が961プロの新アイドル『ジュピター』の圧倒的なパフォーマンスに戦慄するがいい！あと、寺島さんを叩くのはやめろ！」

ちなみに、PV中のランキングにサイネリアの名前がさりげなく出ているそうです。DSファンは必見？

真美・黒井

「マジで!?!」 マジです

アイドル達最大の危機！（前書き）

WARNING！

緊急事態発生。不審なへりが逃走エリアに接近中。

アイドル達最大の危機！

エリア上空に現れた多数のヘリコプター。

時間もハンターの動きも止まった中、それは突然現れた。

雪歩

「な、何あれ!？」

驚く雪歩はさらに驚愕の光景を見た。

ヘリコプターからガラの悪い男達がロープで次々と降りて来る。

そしてその内二人が雪歩の前後に降り立つ。

男A

「ヒヤーツハツハツハ！」

男B

「ムツハー、いい所だねえ〜！しかもいい獲物も見つけたぜ〜！」

雪歩

「ひいひい!？」

男B

「奴らへの人質にするにはちょうど良いな！」

男A

「悪く思うなよ、お嬢ちゃん？」

雪歩

「……ブクブクブク……（泡を吹いて気絶）」

男達はその場に横たわる雪歩を担ぎ上げ、連れ去っていく。

男

「ヒヤッハー！」

男

「フワッハッハッハ！」

その後もヘリコプターから現れた男達は大声を出したりサブマシンガンを乱射したりと、やりたい放題。

しかも、連れ去られたのは雪歩だけではなかった。

P

「あ、あれは！」

あずさ

「律子さんが！」

春香

「亜美も居るよ！」

Pが指差す先に・・・

律子

「プ、プロデューサー！」

亜美

「うわーん！兄ちゃん助けて〜！」

P

「律子ー！亜美ー！」

千早

「何がどうなっているの!?!?」

響

「自分に聞かないでくれ！」

二人はそのままエリア内のある場所にある、確保された逃走者達
が居る牢獄とは違う牢獄へと運ばれた。

貴音

「貴女達は！」

亜美

「あ、お姫ちゃん！それに、みんなも！」

律子

「一体何があつたの？」

愛

「そ、それが・・・」

麗華

「タイマーが止まったと思つたらいきなりヘリコプターが来て、そ
こから降りて来た変な奴らに連れて来られたんだ」

真

「雪歩は気絶しちゃってるし・・・」

伊織

「でも、確保された訳じゃないみたいだわ」

絵理

「でも、すっごくすっごく大ピンチみたい？」

突然ヘリコプターから降り立った男達に、この牢獄へと連れ去られた逃走者達。

その頃、確保された逃走者達の牢獄に近づく者がいた。

牢獄に現れた白スーツの男に、逃走者達は息を飲む。

この男は、先ほど姿を見せたボスっぽい男だ。

ボス

「フッフッフ、アイドル達は我々が預かった」

P

「お、お前は誰だ！」

ボス

「いいだろう、教えてやる。私はロシアからやって来た、泣く子も

黙るマフィア集団『ラグナロク』のリーダー、オーディン」

美希

「ロシアンマフィアっていうのかな？何かの映画みたいなの」

舞

「娘達はどうしたの!？」

オーディン

「アイドル達？彼女達はただの人質。私はそこの君に用があるのだよ、天海春香」

春香

「わ、私!？」

横にいた部下が牢獄の扉を開けて春香を外に出し、オーディンは春香の頭に付けられているリボンに手を伸ばす。

春香

「そ、それはファンからもらった大切な……!」

オーディン

「ほう。だが、私が欲しいのは……」

オーディンは春香の頭からリボンを外し、花飾りの部分から何かを引き抜いた。

それは、SDカードのような小さなチップだった。

オーディン

「フフフ・・・ハッハッハッハッハッ！これで遂に揃うぞ！
『ヴァニティ・リアクター』の起動キーが！」

やよい

「『バレンタイン・トラクター』？」

小鳥

「やよいちゃん、それを言うなら『ヴァニティ・リアクター』みたいよ？」

千早

「バレンタイン・トラクターって・・・あははははは・・・ひーっ、ひーっ・・・」

涼

「あゝ！また千早さんの腹筋が大変な事に！」

美希

「こんな時に腹筋崩壊しないで！」

オーデイン

「さてと、なんなら教えてやってもいいぞ。これが何なのかをな！」

オーデインは不敵な笑みを浮かべながら語り始める。

オーデイン

「実はこの『フォーチュナル・ファンタズマゴリア』が建設される際、企業はある壁にぶち当たっていた。

それは電力だ。これだけ大規模なアトラクションを動かすにはそれ相応の電力が必要である事は考えなくても分かるだろう？そのため、建設中止の噂もあった。

しかし、外国のとある科学者が開発したある技術を実験として提供してもらったおかげで、最後まで建設を進める事ができたのだ。

それはまだ開発段階ではあるが、非常に少ないエネルギーで膨大な電力を供給する事ができる、いわば次世代のエネルギー技術！」

春香

「それが、ヴァニティ・リアクター……」

オーデイン

「そうだ。我々の目的はただ一つ！この『フォーチュナル・ファンタズマゴリア』のヴァニティ・リアクターを我が手中てしゅちゆうに収める事だ！」

春香

「・・・じゃあ、起動キーって何の事なの？何で私のリボンに？」

オーデイン

「フツ、冥土の土産に教えてやる。こここのリアクターは誰かが勝手に操作したり、外部からハッキングができないように、この起動キーによって制御されている。だが、ある時その科学者は極秘にも一つの起動キーを作り、二つのキーによって制御されるようになっていた事が分かった。」

そのため、私は先に盗み出したこれを君へのプレゼントとして用意したこいつに仕込み、765プロへ送ったのだよ。

本来ならば爆弾騒ぎの間にもう一つのキーを手に入れてからそちらを奪うつもりだったが、まさか君がそれを付けてここに来るとはな。やはり天は最高神の名を持つ私の味方だ」

起動キーをケースに入れ、再び笑みを浮かべる。

オーデイン

「命だけは保障しよう。お前達では何もできないだろうからな。」

しかし、君は少々我々に関わりすぎた」

チャキッ

春香

「!?!?」

オーデインが春香に銃口を向けた。

千早

「ま、まさか!?!?」

あずさ

「やめてください!春香ちゃんは関係ありません!」

P

「う、撃つなら俺を撃てー!」

その様子は律子のモニターによって、捕らわれた逃走者達の目にも見えていた。
音声こそないが、目の前で春香が殺されようとしている事だけは分かった。

麗華

「や、やばいぞ！」

伊織

「冗談じゃないわよ！なんで春香が殺されなきゃならないのよ!？」

亜美

「誰かつ……！誰かはるんを助けてよー！」

愛

「春香さん、逃げてええええええええええええ！」

真

「や、やめろおおおおおおおおおおおっ！」

オーディン

「さらばだ、天海春香」

春香

「……………」

そして、引き金を引こうと指が動く……

バシッ！

オーデイン

「ぐわっ！？」

突然、その手から拳銃が弾け飛ぶ。

「・・・間に合った」

オーディン

「お、お前は!?!」

そこには、春香にそっくりなあの謎の少女が居た。

その手に握るサイレンサー付きのサムライエッジで、オーディンの拳銃を正確に撃ち抜いたのだ。

オーディン

「くそつ、また我々の邪魔を・・・こいつらの始末は後回しだ!先にキーを見つけるぞ!」

部下

「は、はい!」

オーディンが部下を連れて逃げ出した後、少女は春香に近づく。

P

「春香が・・・二人!？」

美希

「そっくりさんなの」

逃走者達の反応を無視し、少女は呼び掛ける。

少女

「大丈夫？」

春香

「あ、ありがとう・・・あなたは？」

少女

「私は国際秘密組織・SSSトリプルエスの者よ。コードネームは『エージェント・ルナ』」

春香

「SSS? エージェント・ルナ? (のワの)」

エージェント・ルナ

サブトレイニアン

セキュリティ

スター

「SSSは、Subterranean Security Starsスズの略称で、かつての同時多発テロをきっかけに結成された国連直属の、人知れず世界の愛と平和を守る秘密組織なの」

舞

「世界貿易センタービルに飛行機が突っ込んだあの事件ね、知って

いるわ」

小鳥

「SSSなんて、聞いた事ないんですけど……」

あずさ

「秘密だからじゃないですか？」

P

「なるほど」

再び逃走者達の反応を華麗にスルーし、ルナは話を続ける。

ルナ

「私達SSSは私が入隊する以前からあのロシアンマフィア組織・ラグナロクを追っていたの。今日、私が日本に来たのは奴らがここを襲撃するという情報が入っていたから」

春香

「そ、それで？」

ルナ

「本当は奴らの諜報員を見つけて事前に叩くつもりだったのだけれど、私一人ではそれができなかったばかりか、あなた達を巻き込んでしまった」

春香

「そんな……気にしなくてもいいよ……」

ルナ

「・・・優しいのね。大丈夫。あなた達の仲間は、必ず私が助けるから」

千早

「あの年であんな奴らと戦っているなんて・・・」

やよい

「それより、私達にも何かできる事はないんでしょうか・・・」

響

「くっっ！この檻から出る事さえできれば、自分がサクッとみんなを助け出してやるのにっ！」

謎の存在

「・・・」

その時、逃走者達とルナのやり取りをモニター越しに見ていた謎の存在が、行動を起こした。

再び画面をスライドさせ、タッチする。

REVIVAL GAME .

ピリッピリッ

P
「な、なんだ？こんな時に・・・っ!？」

春香

「プロデューサーさん？」

P
「聞いてくれ!」これよりゲームを一時中断し、敗者復活ゲームを始める『!』

逃走者達

「!?!」

P

「『これより牢獄の逃走者達には、ラグナロクに捕らわれた逃走者達を捜索してもらおう』」

美希

「え？それって・・・」

響

「自分達がみんなを助けられるんだ！」

春香

「ルナ、私達もここを救うために力を貸す。だから、あなたも私達に力を貸して！」

ルナ

「ありがとう、春香。みんなはミッシング・ムーン・ガーデンの塔の近くに閉じ込められているわ。どうか気をつけて」

敗者復活ゲーム

捕らわれの逃走者達を救出せよ！

牢獄の逃走者達に与えられた復活のチャンス。

現在、ミッシング・ムーン・ガーデンの塔の近くにある牢獄にはラグナロクに捕らわれた残存の逃走者達が閉じ込められている。

牢獄の逃走者達は、パーフェクト・サン・パラダイスにある牢獄からスタートし、塔を目指す。

そして塔の近くで自首用の発煙筒の煙を上げれば、本戦に復帰となる。

但し、復活には発煙筒を使ってしまったため、復活した逃走者は自首ができなくなる。

また、復活ゲームのタイムリミットは15分。

さらに、ハンターに捕まればその場でリタイアとなる。

ルナ

「無茶だけはしないで」

春香

「うん。さあ、行こう！捕まったみんなを助けて、復活するぞー！」

逃走者達

「おおっっ！」

果たして、残存の逃走者達の元へ辿り着き、本戦に復帰する者は現れるのか！？

アイドル達最大の危機！（後書き）

WARNING！

緊急事態発生により、真美と黒井社長は避難しました。

逃走者救出大作戦！～敗者復活ゲーム（前書き）

エージェント・ルナの服はコアなファンなら知っているあの衣装です。

しかしなぜアイマス2にオーバーマスターを収録しなかったし・・・

逃走者救出大作戦！～敗者復活ゲーム

牢獄の逃走者達に、復活のチャンスが訪れた。

復活の条件は、15分以内にラグナロクに捕らわれた逃走者達の元へ辿り着く事。

なお、敗者復活ゲームの開始は残存の逃走者達にもメールで伝えられている。

律子

「みんな、もうすぐ助けが来るわ！」

愛

「春香さん！涼さん！ママー！みんなー！私達はここに居ますよー！」

絵理

「早く助けて下さい？」

真

「おーいー！」

ミッシング・ムーン・ガーデンの塔の近くに閉じ込められている残

存の逃走者達の前で発煙筒の煙を上げる事ができれば、復活となる。

しかし、エリア内には5体のハンター。

彼等に捕まるか、時間切れになればリタイアだ。

春香

「レッツゴー！」

敗者復活ゲーム開始まで、残り10秒。

9
8
7
6
5
4
3
2
1

S T A R T

P・響・春香

「行くぞー！」

敗者復活ゲームが、幕を開けた！

ハンターをかい潜り、15分以内に塔へと辿り着く者は現れるのか！？

舞

「こっちから行くところかしら？」

小鳥

「私はこっちへ・・・」

あずさ

「どっちへ行ったらいいのかしら？」

千早

「春香、こっち！」

春香

「うん！」

逃走者達は一斉に、ワンダリング・スター・スペースを経由するルートと、レインボータウンを経由するルートに別れる。

涼

「みんな、どこ？」

必死で呼び掛ける涼。

しかし・・・

ハンター

「！」

涼

「ぎゃおおおおん!？」

出てきたのは、ハンター・・・

叫ぶと同時に足が止まり、確保。

涼

「もう無理・・・」

さらに別の場所では・・・

舞

「ぎえっっ」

日高舞、確保。

舞

「改めて追いかけてみると、やっぱりハンター早いわ……」

やよい

「うっう、ハンター居ます」

響

「くっつ、あと12分で着けるかな……」

P

「あいつらが待っているんだ、急がないと！」

ハンターに邪魔され、なかなか先へ進めないようだ。

そんな中……

絵理

「あ、誰か来た？」

愛

「本当に!？」

雪歩

「こゝ、こゝちです〜！」

亜美

「早く助けて〜！」

いち早く、捕らわれの逃走者達の元へ辿り着いたのは……

「着きました〜」

三浦あずさだ……

伊織

「あずさ!？」

麗華

「この人がまさかの一番乗りとは……」

あずさ

「適当に歩いてたら、着いちゃったわ〜」

律子

「さ、さすがあずささん・・・」

みんなの顔を見て安心したあずさは、発煙筒の煙を上げようと準備を始める。

あずさ

「ほいつ
」

プシューーッ

彼女のイメージカラーである紫色の煙が天高く昇っていった。

三浦あずさ 復活

あずさ

「また、よろしく願いしますね」

貴音

「はい、共に生き残しましょう」

亜美

「あずさお姉ちゃん！」

あずさ

「よしよし、亜美ちゃん、怖かったでしょ？」

亜美

「怖かったよー！」

真

「何はともあれ、これであずささんが戻って来たぞ」

愛

「春香さん、来るかな・・・？」

敗者復活ゲーム終了まで

10:00

ハンター

「・・・・・・・・」

春香

「うん、ハンター向こう行ったみたいだよ」

千早

「ええ、今のうちに」

ハンターが通り過ぎるのを待ち、レインボータウンの大地を一気に走り抜ける春香と千早。

そのハンターが向かう先には・・・

小鳥

「塔は向こうだったはず・・・って、来たー！」

ハンター

「！」

正面から迫るハンターに気づき、Uターンして逃げ出す。

しかし、そのまま追い付かれ、確保。

小鳥

「私って本当に籠の中の鳥だわ・・・」

やよい

「もう少しでみんなの所です!」

美希

「あとちょっとなの!」

別々の方向から、やよいと美希が塔まであと37メートルまで接近。だが、1体のハンターがその近くに居るため、立ち往生していた。

やよい

「ハンターさん、早く向こう行って下さい・・・」

美希

「行けそうで行けない・・・」

身を隠したまま、動けない・・・

ハンター

「!」

いきなり走り出すハンター!。

視界に捕らえているのは……

美希

「来たのー！」

金髪をなびかせながら全力で走る美希と、負けじとそれを追うハンター。

ハンター

「？」

美希

「ちょっと離れちゃったけど、助かった……」

うまく撒いたように見えたが……

別のハンター

「！」

美希

「助かってない！」

今度は距離が近すぎたため、あっけなく確保。

美希

「ダメだこりゃ・・・」

美希がハンターに追われている間に、やよいが残存の逃走者達の上に到着。

やよい

「助けに来ました〜！」

律子

「おお！」

あずさ

「やよいちゃん、頑張ったわね〜。えらいえらい」

雪歩

「これでやよいちゃんも復活だね」

ハンター

「！」

美希を確保したハンターが戻って来た・・・

伊織

「ハンター戻って来た！」

愛

「は、早く発煙筒を！」

やよい

「はいっ！」

プシューッ

ハンター

「・・・」

やよいの発煙筒から上がるオレンジ色の煙を見て、ハンターはやよいを追いかける事をやめて去っていった。

高槻やよい 復活

やよい

「*・ワ・」 うっうー！」

残りの牢獄の逃走者達は、春香・千早・響・Pの四人。

敗者復活ゲーム終了まで

5:00

P

「くそ〜・・・迂闊に出れない・・・」

ハンターに足止めされる、若きプロデューサー。

響

「よし！ハンター居ない」

Pとは対照的に、強気で進む、ちゆらさんコンテスト優勝者。

春香

「こっちはハンター居ないよ」

千早

「こっちも今の所は安全みたい」

二人で協力して先に進む、赤いリボンと蒼い鳥。

復活なるか！？それとも・・・

敗者復活ゲーム終了まで

4：00

P

「あそこか！」

なんとかハンターの目をすり抜け、塔からあと30メートルの所まで来たP。

しかし、塔の近くにまたハンター・・・

またしても足止めをくらったPの近くに・・・

響

「もーちよいだー、って、居るしー！」

ハンター

「！」

P

「や、やばいいい！」

見つかった・・・

P

「響、こっちだ！」

響

「二人纏めて確保だけは勘弁だぞー！」

敗者復活ゲーム終了まで

3:00

二人で必死になって走り続けるPと響。

すぐ曲がればPだけは助かりそうな距離だ。

ところが・・・

ハンター

「！」

響

「うげっ！？」

P

「ウソだろっ！？」

前後のハンターに、二人纏めて確保。

響

「最悪の結果だっ！」

P

「俺が助けてやるべきなのに・・・ホント、俺ってカッコ悪いプロデューサーだぜ・・・」

亜美

「うあ、兄ちゃんもひびきんも捕まっちゃった」

真

「残りは春香と千早の二人だけか」

麗華

「せめてあと一人は来てくれ〜！」

絵理

「頑張つて？」

敗者復活ゲーム終了まで

1:30

千早

「時間がないわ」

春香

「もうハンター無視してつつ走るしかないよ！」

距離はそんなに遠くないため、二人は強行突破の作戦に出る！

敗者復活ゲーム終了まで

1:00

雪歩

「あ、あそこ！」

やよい

「あれは！」

愛

「春香さんだ！おい！」

伊織

「千早も居るわ！」

遂に春香と千早が、逃走者達の元へ辿り着いた！

春香

「みんな、ケガとかしてない？」

亜美

「亜美は元気だよ」

雪歩

「た、多分大丈夫・・・」

千早

「高槻さんとあずささんも・・・」

あずさ

「また頑張る事になりました」

やよい

「千早さんも、早く発煙筒を！」

春香

「一緒にやる？」

千早

「分かったわ」

プシューッ

赤と蒼の煙が、空を彩る。

天海春香・如月千早 復活

残り13人

こうして、敗者復活ゲームは終了した。

ルナ

「お待たせ、みんな！」

春香

「ルナ！どこに行ってたの？」

ルナ

「奴らがあなた達の邪魔をしないように牽制して来たのよ」

亜美

「あー！さっきのはるるん2号！」

ルナ

「はるるん2号！？」

愛

「ホントに春香さんにそっくり！」

律子

「世界には顔がそっくりな人間が二人は居るって聞いたけど、ここまでそっくりだとは」

真

「しかも衣装は『パンキツシュゴシック』か」

伊織

「春香がこの衣装を着ると春香のファン達がまるで女王様の下僕み

たいになっちゃうのよね」

春香

「どうしてだろう？」

麗華

「そんな事より、何者なんだ、そいつは？」

エージェント説明中・・・

律子

「なるほど、その『ラグナロク』っていうテロリストが黒幕で、ルナは奴らと戦う秘密組織のエージェントって訳ね」

雪歩

「こんな楽しい場所を荒らすなんて、許せない！」

真

「ハンターから逃げながらも、ボク達も一緒にラグナロクと戦うよ！」

絵理

「サイネリアを麻薬運びに使ったツケを払わせてあげる！」

愛

「絵理ちゃんのセリフが普通・・・本気だ！」

説明を聞きながらルナによって牢獄から出された逃走者達は、ゲ
ム開始前より気合が入っている様子。

春香

「よし、みんな！ラグナロクをやっつけて、この遊園地とヴァニ
テイ・リアクターを守り抜くぞー！」

逃走者達

「おおーっ！」

春香

「そして、ハンターからも逃げ切るぞー！」

逃走者達

「えい、えい、おおー！」

ルナ

「頼もしいわね。SSSにも、春香みたいな人間が必要だわ……」

いよいよ逃走劇は、後半戦に突入する……

果たして、残り43分57秒を逃げ切り、賞金132万円を手にする者は、現れるのか!?

ゲーム残り時間

43:57/¥528900

《TIMER STOPPED》

残りの逃走者

天海春香 如月千早 萩原雪歩 高槻やよい 菊地真 秋月律子
水瀬伊織 三浦あずさ 双海亜美 四条貴音 日高愛 水谷絵理
東豪寺麗華

残り13人

逃走者救出大作戦！～敗者復活ゲーム（後書き）

黒井

「何だ！？あのカリスマは！これが本当にあの765プロの天海春香なのか！？」

真美

「違うよ～。あれははるるん2号だよ」

黒井

「え？そうなのか？」

人の話を聞け！

それにしても、なぜ春香にはパンキッシュゴシックがあんなにも似合うんだ？

ゲーム再開10分前・・・(前書き)

今回は後半戦への導入部分なので短いです。

ゲーム再開10分前・・・

敗者復活ゲームによって、春香・千早・やよい・あずさの四人が復活、残りの逃走者は13人となった。

ゲーム再開の時間いっぱいまで、改めてエリア中を見て回る逃走者達。

律子

「やっぱり、モニターがあるからって安心はできないわね」

真

「このゲームって、ハンターより先に気づけるかどうかで決まるな」

アイテムを有効活用し、作戦を立てる律子と真。

亜美

「んっふっふ　このまま逃げ切っちゃうよー！」

愛

「ママや涼さんの分まで頑張るぞー！ (>▽<)」

絵理

「あんな事言っちゃったけど、実際はハンターから逃げる事しかできななんだよね？」

後半戦に向け、気合十分の亜美、愛、絵理。

伊織

「セグウェイ乗り場ってどこなのよー！」

伊織はゲーム再開前から、チケットを手にレインボータウンのセグウェイ乗り場を探している。

麗華

「聞いた話では、もう宝箱はないみたいなんだよね」

激レアアイテムである、反応のない謎のスイッチを手に、隠れ場所を探す麗華。

雪歩

「私、頑張ってきますー！」

貴音

「行って参りますわ！」

P

「ああ！」

牢獄のPに挨拶をする雪歩と貴音。

やよい

「あの時は大きな声を出してハンターに見つかっちゃったから、静かにしないといけませんね！」

あずさ

「のんびりしすぎちゃダメですね」

春香

「今度は転びませんように・・・」

千早

「ハンターはどこにでも現れるから、警戒しておかないと」

自分が確保された時の状況を思い出し、心機一転して逃走成功を狙う復活組。

なお、復活組は発煙筒を敗者復活ゲームで使ってしまったため、

自首は不可能。

それぞれの思いを胸に、逃走者達はゲーム再開の時を静かに待ち続けた。

ラグナロク兵士A

「おい、あいつらが居なくなっているぞ！」

兵士B

「探せ！ここから外には出ていないはずだ！」

その頃、ラグナロクはルナと復活組によって救出された逃走者達の行方を追っていた。

オーデイン

「お前達！なんとしてもアイドル達を見つけ出すのだ。奴らは大事なSSSへの人質。殺してはならんぞ」

白い服の部下x3

「はっ！」

オーディンの命令を受けた白い服の部下達は、無線を持って逃走者達を探しに行った。

オーディン

「図に乗るなよ、エージェント・ルナにアイドル達よ！お前達の無力を思い知らせてやる！」

謎の存在

「・・・・・・・・」

オーディン（モニター）

『そして、全てが終わったらあの偽アイドルをバラバラにして、765プロにその首を送り付けやてる！』

謎の存在は画面をスライドさせ、白服の無線とハンターが身につけてるインカムを映し出す。

そして何かの操作をした後、下にある「OK」をタッチした。

この時、画面には無線とインカムの周波数と思われる数字が並んでいた。

ゲーム再開5分前

ピリリッピリリッ

春香

「あれ？まだ始まってないのに」

愛

「えーと、『通達』？」

真

「『ラグナロクが逃げた逃走者達を探すために、白い服のマフィアを3人送り込んだ』」

亜美

「『彼等はゲーム再開と同時に搜索を開始し、』」

やよい

「『見つけた逃走者の位置をハンターに伝える』ええ〜!？」

貴音

「『気をつけたまえ』ですか・・・」

伊織

「上等じゃない!テロリストなんかに負けるか!」

ゲーム再開前に逃走者達に伝えられた、白服のマフィアという新たな脅威。

彼等はハンター同様にエリアをくまなく搜索。

直接確保は行わないが、発見した逃走者の位置を無線でハンターに通報する。

千早

「いや、ここまで来た以上、恐れてはいられない!」

あずさ

「隠れるのは得意ですよ」

麗華

「やっと逃走中らしくなってきたな！」

雪歩

「怖いけど、根性で乗り切ります！」

恐れるどころか、ますますボルテージが上がる逃走者達。

ゲーム再開まで、残り10秒

9
8
7
6
5
4
3
2
1

S T A R T

ゲーム残り時間

43:56 / ¥529200

残り
13人

ゲーム再開10分前・・・(後書き)

真美

「次回の逃走中まであと四日だー！(2011年3月2日現在)」

黒井

「私も見るぞ！」

更なる恐怖への誘い〜MISSION 3 - Aスタート! (前書き)

たまには私の処女作である長編の『魔導戦記リリカルなのはAno
t h e r w o r l d 』もよろしくお願いします!

そして、リリカルショーバイさんが大変な事を発表したそうです。

更なる恐怖への誘い〜MISSION 3 - Aスタート!

遂に、ゲーム再開。

5体のハンターは一度ゲーム開始時の場所に集められ、ゲーム再開と同時に再び放出された。

さらに、後半戦からは通報部隊という新たな脅威が逃走者達を襲う。彼等に見つかれば、位置情報がハンターに伝えられる。

逃げ場は、ほとんどない。

ゲーム残り時間

43:30 / ¥537000

伊織

「ここだー!」

伊織がセグウェイ乗り場に到着。

チケットを使えば、ハンターから逃げるためのセグウェイを入手できる。

伊織

「テロリストのせいかな？誰も居ないわ」

セグウェイ乗り場にいた従業員は、すでに避難した後だった。その代わりに、一台の機械が設置されている。

伊織

「この機械に入れるのかな？」

伊織はチケットを矢印のある部分に差し込む。するとチケットは機械に吸い込まれ、下から一本の鍵が出てくる。

鍵に付けられたタグに書かれた数字と同じ数字のセグウェイを探し、鍵を差し込んだ。

伊織

「にひひっ」

伊織は少し試し乗りをしてから、再び隠れ場所を探す。セグウェイのバッテリーは限られているため、ハンターに追われている時以外は足で地面を蹴って進む事にした。

律子

「近いわね、ハンター」

春香

「ど、どうしよう・・・」

あずさ

「何か見えるかしら、真ちゃん？」

真

「・・・白い奴だ」

律子と合流した春香はハンターを、真と合流したあずさは通報部隊を見つけ、思うように動けずにいた。

しかし、律子組はモニターで、真組は双眼鏡で先にハンターと通報部隊を見つけたおかげで、気づかれずにそれらをやり過せた。

一方、ミッション1以降あまり目立っていない貴音は亜美と共に、ガーデンの亜美が網鉄砲を入手した場所に居た。

貴音

「以外と居心地がいい・・・」

亜美

「でしよでしよ　！」

亜美が宝箱の中に隠れてハンターをやり過ごした話を聞き、試しに自分も入ってみたのだった。

貴音

「（　　）」

亜美

「お姫ちゃんって、なんか気に入ったものがあるとすぐこころなるんだよね〜」

その近くにチラリと見える、黒い影・・・

亜美

「来てるよ・・・」

物音を立てないように、すぐさま茂みに隠れる亜美。
ハンターは気づいていないようだ。

ハンターは視界に入った逃走者のみを追うため、姿さえ見えなければ追われる事もない。

そのため、宝箱の中に居る事さえ気づかれなければ捕まる事もない。

貴音

(さて、そろそろ外に出ましようか)

パカッ

ハンター

「!」

貴音

「なっ!?!」

ポンッ

四条貴音 確保

残り12人

ゲーム残り時間

41:56 / ¥565200

最も、貴音の方がハンターに気づいてしっかりと隠れようとしていればの話であったが。

亜美

「お姫ちゃん……」

貴音

「む、無念です……！」

結局、彼女の本当の実力は最後まで謎のままだった。

千早

「確保情報だわ」

麗華

「『ミッシング・ムーン・ガーデン北部にて』、」

真

「『四糸貴音確保、残り12人』……」

愛

「やっぱり通報部隊のせいかな・・・」

その頃、遊園地の外では警察の機動隊が集まり、包囲していた。

ルナは善永刑事に自分の正体を明かし、協力を要請したのである。

善永刑事とルナの後ろには、事情聴取のために連れて来られていた夢子とサイネリアも居た。

善永刑事

「秘密組織のエージェントだなんて、マンガみたいな話ね」

ルナ

「嘘は言っていないわ。とにかく今は、奴らの隙を探りましょう。ヘタに動けば、奴らは何をしでかすか分からないわ」

夢子

「一体どうなるのよ、この遊園地は・・・」

サイネリア

「センパイ・・・」

その時、善永刑事の警察無線から連絡が入る。

機動隊

『善永刑事！西南西の方角から多数の不審なヘリが接近しています！』

善永刑事

「何ですって!?!」

ルナ

「奴らの増援か。ちょっと行ってくるわ!」

ルナはどこから取り出した長い筒のようなものを持って中へ入っていった。

フォーチュナル・ファンタズマゴリアへ再び接近する、多数のヘリコプター。

その運転手に連絡が入る。

運転手

「はい」

オーデイン

『そちらはあとの程度の時間でこちらへ着くのだ?』

運転手

「第一グループはあと5、6分程度、第二グループはその15分後の予定です」

オーデイン

『そうか。到着したらすぐにアイドル達の捜索にあたれ』

運転手

「了解」

オーデイン

『よろしい。それと、例の兵器の使用を許可する事にしよう。SS
Sが関わっている以上、出し惜しみをする必要はない』

この運転手が操縦する第一グループのヘリコプターの遙か後方には、
第二グループのヘリが編隊を組んで飛行中。

オーデイン

「・・・何？そうだ。あの人型兵器だ」

その一台一台に、ハンターが積み込まれていた。

ゲーム残り時間

41:00 / ¥582000

雪歩

「通報部隊も怖いなあ・・・」

ピリッピリッ

メールだ。

雪歩

「ひゃああ！だ、誰ですか、こんな時に電話なんて」

メールだ。

雪歩

「あ、メールだった・・・『ミッション3-A』？」

伊織

「『これより、ラグナロクによるエリアへの襲撃が二回に分けて行われる』3-Aってそういう事？」

やよい

「『一回目の襲撃はゲーム残り35分』」

愛

「『その時間になると、上空から逃走者達を搜索する監視ヘリが到着する』」

春香

「『上空監視を止めるためには、パーフェクト・サン・パラダイスの自首ポイント近くにある』」

千早

「『近くにあるチャフグレネード弾を打ち上げなければならない』
「チャフグレネードって何?」

MISSION 3 - A

監視ヘリを追い返せ!

ラグナロクによって始まる二度のエリア襲撃。

その一回目は、ゲーム残り35分に上空監視へりを投入するというもの。

監視へりは上空から逃走者を搜索し、その位置情報を地上のハンターに伝える。

上空監視を阻止するには、パラダイスの中心の765プロマークのシンボルがある自首ポイントに設置されている砲台を使い、電磁波でへりのコントロールを狂わせるチャフグレネード弾を打ち上げなければならぬ！

なお、このミッションは時間無制限であり、クリアしない限り、へりはエリア上空に留まる。

春香

「じゃあ、私行くから律子さんはサポートお願い！」

律子

「カメラの位置にもよるけど、やれるだけやってみるわ！」

真

「ボクが行きます！」

あずさ

「お願いね、真ちゃん」

愛

「よし、今度こそ活躍するぞー！」

伊織

「これ、セグウェイがある私が行かないとテレビ的にダメだよね・
・？」

麗華

「そろそろ活躍して、魔王エンジェルをアピールするとするか！」

春香、真、愛、麗華がミッションへ向かう意思を見せる他、人任せ
のはずの伊織も乗り気ではないが参加。

五人の逃走者が果敢にミッションに挑戦する。

しかし、エリア内には5体のハンターと3体の通報部隊。
ミッションに動けば、見つかるリスクも高まる。

果たして、監視ヘリを追い返す事はできるのか!?

逃走劇の真の恐怖は、ここからが本番だ。

ゲーム残り時間

40:11 / ¥596700

監視へり到着まで

5:11

残りの逃走者

天海春香 如月千早 萩原雪歩 高槻やよい 菊地真 秋月律子
水瀬伊織 三浦あずさ 双海亜美 日高愛 水谷絵理 東豪寺麗華

残り12人

更なる恐怖への誘い〜MISSION 3 - Aスタート! (後書き)

真美

「真美も参加したい!」

そう言うと思って、すでに第二弾を構想中。

亜美真美を二人で参加させると同時に、『奴ら』も参加します!
チラッ)

黒井

「なぜこっちを見る?」

待ったなしの攻防（攻められないけど）（前書き）

今回の逃走中も最高に面白かった！（>ワ<）q

まさか見逃した人は居ませんよね？

待ったなしの攻防（攻められないけど）

二回に分けて発令された第三のミッションの一回目。

ゲーム残り時間35分になるとヘリによる上空監視が始まり、パラダイスの中心部の自首ポイントでチャフグレネードを打ち上げなければ、それはゲーム終了まで続く。

ゲーム残り時間

40:00 / ¥600000

監視ヘリ到着まで

5:00

ゲーム残り時間は半分を切り、賞金は60万を越えた。

残り40分を逃げ切れれば、最高賞金132万円を獲得。捕まれば、ゼロ。

律子

『そのまま真っすぐ行って。ハンターは居ないから』

春香

「はい」

律子はエリア内の16ヶ所にある監視カメラの映像を見る事ができるモニターを所持している。

これを使い、律子はミッションへ向かう春香をサポートしている。

律子

(私も動こうかな?)

一箇所においては状況を掴めないと判断し、移動を試みる。

その時、律子の背後を黒い影が通り過ぎた。

ハンター

「.....」

間一髪。

愛

「あずさちゃん!」

あずさ

「愛ちゃんじゃないの」

その近くで、アイドルの中では最年少と最年長の参加者が出会う。

愛

「あたし、今ミッションやろうと思ってたんですけど、あずささんは？」

あずさ

「真ちゃんに任せちゃったわ」

愛

（よく他の人に出会えたなあ・・・）

あずさ

「？」

愛

「な、何でもないです！」

二人の正面から、先ほどのハンターが・・・

愛

「それじゃ、あたし行きます・・・来たー！」

慌てながら、ハンターから全力で逃げる愛。

しかし、13歳の体力ではハンターには敵わない……

ハンターとの距離は、あと2メートル。

愛

「ひゃあああ〜！」

ポンッ

日高愛 確保

残り11人

ゲーム残り時間

39:24 / ¥610800

監視へり到着まで

4:24

愛

「せっかく春香さん達に助けてもらったのに〜！あずさちゃんはどう行ったかったの〜!？」

876プロの元気印、ここに散った・・・

一方、あずさはというと・・・

あずさ

「またまた迷ってしまいました」

先ほどまで近くにいた愛が確保されたにも関わらず、相変わらずのマイペースぶりであった。

再び他の逃走者を探すあずさに、白い恐怖が近づく・・・

通報部隊

「！」

通報部隊に、見つかった・・・

すぐさまあずさの位置がハンターに伝えられる。

ハンター

「！」

あずさが現れたのは、エリアの最南端。
その近くに居る1体のハンターが、あずさの確保へと向かう！

あずさ

「どつしましよう・・・」

あずさも通報部隊の姿を見つけ、走り出す。

運よくハンターが走って来る方向とは反対に逃げたため、ハンターがその姿を捉えた時には角を曲がる所であった。

ハンター

「？」

ハンターは、あずさを見失ったようだ。

あずさ

「危ない危ない・・・」

ゲーム残り時間

37:00 / ¥654000

監視ヘリ到着まで

2:00

伊織

「一番乗り〜！」

遂に伊織がセグウェイで目的地に辿り着いた。
バッテリーと周りを気にしながら、発射台に向かう。

ルナ

「あなたは、水瀬伊織！」

伊織

「あ、さっきの春香もどきじゃないの！さつさとそのチャフグレネードってやつを打ち上げさせてちょうだい！」

伊織は発射台のスイッチに手を掛けようとする。

チャフグレネードを打ち上げれば、ヘリによる上空監視を阻止する事ができる。

ところが……

伊織

「な、何これ!？」

スイッチは銃弾の痕と思われる複数の穴が空いており、使い物にならなくなっていた。

ゲーム残り時間

36:00 / ¥672000

監視へり到着まで

1:00

伊織

「どうしちゃったの、これ!？」

ルナ

「私とした事が、敵の奇襲を受けてしまったわ。おかげでこの通りよ」

伊織

「ど、どうすんのよ!」

ルナ

「何か、スイッチのようなものがあれば・・・」

ルナが設置した発射台はラグナロクの攻撃によってスイッチが破壊され、打ち上げができない状態になっていた。

打ち上げるには、『スイッチのようなもの』を探し出し、発射台に接続しなければならぬ。

伊織

「あゝもう！またこのパターン！？何でこういう時に限って肝心な事がメールにないのよー！」

その時・・・

ゲーム残り時間

35:00 / ¥690000

バラバラバラバラ・・・

伊織

「げげっ！？やばっ！」

ゲーム残り35分になったため、監視ヘリがエリア上空に到着。見つければ、地上のハンターに位置情報を伝えられてしまう。

逃げ場は、ないに等しい。

伊織

「とにかく、他のみんなに伝えないと・・・」

ヘリから身を隠し、現状を他の逃走者達にメールで一斉送信する。

伊織

「これで少しは楽になるわね・・・」

ブルルルルル

伊織

「？」

送信してから20秒と経たずに、電話が来る。

伊織

「もしもし・・・麗華？」

麗華

「あ、伊織！メール見たぞ」

伊織

『ええ。早くスイッチを探しなさいよ！』

麗華

「えーと、その事なんだけど・・・」

伊織

『何よ？』

麗華

「私、実は今それっぽいものを持ってるんだよね」

伊織

『ええ〜！？』

そう、打ち上げに必要なスイッチは麗華が宝箱から手に入れた、反応がないあの謎のスイッチだったのである。

麗華

『このためにあったんだな。やっぱり頂いといてよかったよ』

伊織

「いいから早く持って来なさいーい！」

電話を切った伊織はスイッチが届くまでの間、近くの看板の影に隠れる事にした。

麗華が持つスイッチを接続し、チャフグレネードを打ち上げなければ、ヘリの監視はゲーム終了まで続く。

しかし、5体のハンターと3人の通報部隊、そしてヘリの監視をかき潜り、ルナの元へ辿り着く事は容易ではない。

果たして、二回目の襲撃が始まる前に、監視ヘリを追い返す事はできるのか！？

ゲーム残り時間

33:59 / ¥708900

残りの逃走者

天海春香 如月千早 萩原雪歩 高槻やよい 菊地真 秋月律子
水瀬伊織 三浦あずさ 双海亜美 水谷絵理 東豪寺麗華

残り11人

待ったなしの攻防（攻められないけど）（後書き）

黒井

「実に愉快だったよ！あの逃げっぷりは」

真美

「これは2011年4月10日も見逃せないね

」

黒井

「当然私も見るぞ！」

二回目の襲撃〜MISSION 3 - Bスタート! (前書き)

今回からレインボータウン以外のエリアは解説時は『パラダイス』
『ガーデン』 『スペース』と縮めます。

二回目の襲撃〜MISSION 3 - Bスタート!

ゲーム残り時間

33:27 / ¥717900

麗華

「ぐぬぬ・・・」

チャフグレネードの打ち上げに必要なスイッチを抱えて、ルナの元へ向かう麗華だったが、今はその場から動けずにいた。

ハンター

「・・・・・・・・」

麗華の視線の先には、ハンター・・・

少し離れた場所に、もう一人。

律子

「やばっ!」

遠くからハンターを目視で見つけ、その場から離れようとする。

しかし、監視ヘリが・・・

○ 律子

目標発見

すぐに地上のハンターに位置情報が伝えられ、ハンターが律子の確保へと向かう！

律子

「ここまで来れば・・・って、嘘でしょ!？」

ハンター

「!」

ハンターにも、見つかった・・・

律子

「や、やっぱり速い!」

逃げる律子は、見通しの良い場所へ来てしまう。

ハンターの視界から外れるには、当然遮蔽物の多い場所へ逃げる事がセオリー。

しかし、上空のへりの音と迫り来るハンターにいつもの冷静さを奪われた今の律子には、それを考える余裕はなかった。

少しずつ、ハンターとの距離が縮まる・・・

律子

「うああっ・・・！」

ポンッ

秋月律子 確保

残り10人

ゲーム残り時間

33:02 / ¥725400

律子

「あゝ、捕まった〜！これじゃモニターも役に立たないじゃないの〜！」

ローソン名誉店長、墮つ。

千早

「また確保情報・・・」

亜美

「『レインボータウン南東部にて』・・・ああ〜！律っちゃんが
！」

雪歩

「『秋月律子確保、残り10人』」

（牢獄DEトーク）

P

「確保情報です！」

一同

「おお？」

P
「……律子確保！」

涼

「ええー！？律子姉ちゃんがー!?」

小鳥

「ごんごん捕まっていきますね……」

響

「ところで、貴音はさっきから何してるんだ？」

貴音は確保された後、先ほどの宝箱を牢獄に持って来ており、またその中に入っていた。

貴音

「プロデューサー殿、わたくしは目覚めてしまったようです。この宝箱の中に入り、フタを閉じた時の穏やかさに。そう、例えるなら夜の草原に一人で佇んでいるような、あるいは何も無い場所で空を眺めているかのような……」

美希

「……あふう。ミキには、よく分からないな。そんな狭い所にいるより、お日様の下でお昼寝してる方が気持ちいいと思うの」

P

「ハハハ、美希らしいな。って、あれ？舞さん？」

舞

「そうそう、こんな感じで宝箱にハンターが入ってたのよ!」

愛

「もうその話はいいから!」

〜牢獄DEトーク終わり〜

やよい

「うう、怖いです」

ゲーム再開からずっとガーデンの茂みに隠れている、高槻やよい。
これでも高槻家の中ではお姉さんの方である。

スタッフ

「ミッションはどつするんですか?」

やよい

「本当は行きたいんですけど、事務所のみんなや家族のために、逃げ切る事を考えます……。ハンターも怖いですし……」

一度確保されているため、やよいはハンターの恐ろしさを十分に理

解している。

恐怖の中でも、家族の事を思い出して健気に頑張るやよい。
貧乏暮らしならではの強い精神力(?)だ・・・

千早

「やっぱり、ないわね」

隠れている場所の近くで宝箱を見つけた千早は中を覗くが、空だ。

千早

「やっぱりあれがそうなのかしら。だとしたら彼女に任せるしかないわ」

麗華がスイッチを持っている事は千早も知っていた。

前半のミッションには果敢に挑んできた千早だったが、一度捕まっ
てからはやや慎重になっている。

その判断が吉と出るか、凶と出るか・・・

答えは、半分ぐらい凶。

千早

○

目標発見

監視ヘリが千早を見つけ、位置情報がハンターに伝わる。

ハンター

「！」

千早

「・・・来た！」

走って来るハンターの姿を見つけ、離脱する。

ハンター

「？」

どうやらハンターの視界には入っていないようだ。

さらに、建物の影に身を隠しながら逃げたおかげで、監視ヘリからも逃れる事ができた。

千早

「今はまだ動き回るのは危険ね・・・」

一方、ルナと伊織が待つ場所に・・・

麗華

「着いたぞ〜！」

伊織

「麗華！遅いわよ！」

麗華

「無茶言つなよ。ハンターに足止め喰らってたんだから」

ルナ

「とにかく、早くスイッチを！」

麗華は壊れたスイッチに繋がっている発射台のコードを外し、持ってきたスイッチに繋ぐ。

麗華

「そおい！」

カチッ

バシユウウウウ・・・

スイッチを押すと同時に、筒からチャフグレネード弾が発射される。

グレネードは空中で小型のパラシュートを開きつつ、電磁波を発生させる。

ピピピ、ガーガーガー

運転手

「なんだ！？コントロールが・・・」

監視へりはチャフグレネードの電磁波によってコントロールを失い、左右にふらふらと揺れたのちにそのままどこかへ飛んでいった。

ミッションクリア

麗華・伊織

「やったあ〜！」

ピリッピリッ

春香

「あ、『ミッション2結果』だって」

絵理

「『東豪寺麗華の活躍によりチャフグレネード弾の打ち上げに成功』
？」

やよい

「『監視へりを追いつ返した』！助かりました〜！」

亜美

「ねーちゃん、やあ〜」

麗華の活躍によって上空監視へりは追い返され、逃走者達にとって圧倒的に不利な状況を打開する事ができた。

しかし、これはまだミッション3の半分にすぎない。

ゲーム残り時間

31:00 / ¥762000

ピリッピリッ

伊織

「ん？何よ？」

メールだ。

伊織

「『ミッション3・B』……ここからが本番ね！』」

麗華

「えーと、『二回目の襲撃はゲーム残り20分』」

雪歩

「『その時間になると、上空に再びヘリコプターが現れ、ハンターを1体放出』って、また増えるんですか〜!？」

千早

「『その後、1分ごとにハンターが1体ずつ放出され続ける』」

真

「『阻止するには、ミッシング・ムーン・ガーデンの中心にある発射台からもう一度チャフグレネード弾を打ち上げなければならぬ』」

あずさ

「『但し、今度は二人同時に発射スイッチを押す必要がある』・・・
みんなはどこかしら〜?」

MISSION 3 - B

ハンターヘリを追い返せ!

二回に分けて発令されたミッション3の二回目。
ゲーム残り20分になると、ハンターを4体ずつ乗せたヘリコプター5機がエリア上空に到着し、その内のランダムに1機から1体のハンターを放出。
以降、1分ごとにランダムにヘリコプターからハンターが1体ずつ放出され続ける。

ハンター放出を阻止するには、ガーデンの中心にある発射台のスイッチを二人同時に押し、再びチャフグレネード弾を打ち上げなければならぬ！

このミッションは時間無制限ではあるが、クリアが遅ければ、より多くのハンターが放出される事になる。

麗華

「私が行くぞ！スイッチ見つけたのは私だからな」

伊織

「あー、やばかったら私に任せなさいよ？」

真

「近いな・・・行ってみよう！」

絵理

「行くところかな？」

あずさ

「誰かいないかしら？」

春香

「さっきはやってる間に捕まっちゃったから、今度こそ活躍するぞ
」！
」

麗華、真、絵理、あずさ、春香の五人がミッションに参加する模様。

ハンターへりを追い返せなければ、残り20分から1分ごとにハンターが放出され続ける。

しかし、その行く手を阻むのは、5体のハンターと3人の通報部隊。

恐怖はまだ、終わらない。

ゲーム残り時間

30:06 / ¥778200

ハンター放出まで

10:06

残りの逃走者

天海春香 如月千早 萩原雪歩 高槻やよい 菊地真 水瀬伊織
三浦あずさ 双海亜美 水谷絵理 東豪寺麗華

残り10人

「二回目の襲撃」MISSION 3・Bスタート！（後書き）

真美

「……………」

黒井

「最近あとがきのネタがなくなってきたな」

真美

「そーだねー」

加速する恐怖の中で（前書き）

徳丸さん……（ノー・。）

全国のプロデューサーさんとアイマスファンにとって、あなたは最高の社長でした！

加速する恐怖の中で

監視ヘリを追い返した直後に、休む暇なく始まった新たなミッション。

ガーデンの中心にて再びチャフグレネードを打ち上げなければ、ゲーム残り20分以降、ヘリコプターからハンターが1体ずつ放出され続ける。

ゲーム残り時間

28:09 / ¥813300

亜美

「うむむ・・・」

ガーデンを離れ、城へと移動している、双海亜美。

亜美

「もう80万いったのか。これは自首もありかもね」

四つのエリアの中心にある765プロのマークのシンボルの元で発煙筒の煙を上げれば、その時点での賞金を獲得し、ゲームからリタイアできる。

亜美

「ハンター出て来たら自首しちゃおっかな」

高額賞金に、心が揺れ動く・・・

絵理

「・・・いたいた？」

ハンター・通報部隊

「・・・」

ガーデンに向かう途中で、ハンターと通報部隊を見つけた絵理。

通報部隊は近くの角を曲がってどこかへ行ったが、ハンターは絵理に背を向けたまま歩いている。

ハンター

「？」

ハンターは振り向くが、絵理は視界に入っていない。

絵理

「危なかった」

春香

「あれ？こっち遠回りじゃん！」

あずさ

「あらー？ここはどこかしら？ついでにみんなはどこかしら？」

真

「うむ、また遠くにハンター居るな」

果敢にミッションへ向かう逃走者達だが、ハンターと通報部隊がその行く手を阻む。
捕まれば、賞金はゼロ。

ゲーム残り時間

25:00 / ¥870000

ハンター放出まで

やよい

「あれ？これって・・・」

別の隠れ場所を探しに移動していたやよいは、偶然にも発射台を見つけた。

しかし、やよい一人だけでは発射する事ができない。

さらに・・・

やよい

「あれ〜！？スイッチが一つしかありません！」

なんと、発射台に繋がっているスイッチが一つしかなかったのだ。

やよい

「うっうっ、これじゃ他に誰か居てもミッションできません・・・」

一方、こちらは麗華。

麗華

「まさか、あっちのスイッチも壊れてたりしないだろうな？」

半分は正解だ。

あちらの発射台も、麗華の持つスイッチを繋がなければ発射する事ができない。

麗華はそれを予測してスイッチを持ったままガーデンへ向かっていった。

そこに・・・

真

「あれ？麗華さん？」

麗華

「真じゃないか。そっちもミッションやってるのか」

真

「そうですね・・・それは？」

麗華

「ああ、これがさっき伊織が言ってたスイッチだよ。私が見つけたんだ」

ゲーム残り時間

23:00 / ¥906000

ハンター放出まで

3:00

麗華

「私が行ってくるからアンタは逃げてなさい」

真

「そうはいつでも、二人じゃないと・・・!」

ハンター

「!」

ハンターに、見つかった・・・

麗華

「や、やばい!」

スイッチをその場に置き、正面から迫るハンターから二手に別れて逃げる。

追われるのは・・・

麗華

「なんでこっち来るんだ〜！」

麗華だ・・・

真

（今だっ！）

真は近くに隠れてハンターの視界から消えた後、放置されたスイッチを持って発射台へ向かった。

麗華

「来るな〜！」

その間に、麗華はハンターに追い詰められる。

もはや、万事休すだ・・・

麗華

「ぎよええ〜！」

ポンツ

東豪寺麗華 確保

残り9人

ゲーム残り時間

21:51 / ¥926700

ハンター放出まで

1:51

麗華

「こんな終わり方ってありが〜！くそ〜！」

魔王にも天使にもなれずに、確保。

P

「東豪寺麗華確保ー！」

舞

「あらら、もっとやねると思ったのに」「

伊織

「あいつ、とうとう悪運が尽きたようね」

絵理

「これって、今私以外みんな765プロ？」

麗華の確保により、765プロ以外からの逃走者の中で残ったのは、水谷絵理ただ一人となった。

ゲーム残り時間

21:00 / ¥942000

ハンター放出まで

1:00

亜美

「よし、自首しちゃお」

パラダイスの中心の自首ポイントへ向かおうとする亜美。

亜美

「あっちだったっけ？って、うわっ！？」

通報部隊

「！」

しかし、通報部隊に見つかった。

ハンター

「！」

通報を受け、2体のハンターが亜美の確保へと動き出す！

亜美

「ぎゃ〜！来ないで〜！」

通報部隊から必死で逃げる亜美。

しかし・・・

ハンター

「！」

亜美

「わっ!」

ハンターが亜美を視界に捉える。もう1体のハンターも到着する。

さらに・・・

別のハンター

「!」

亜美

「うわっ!」

逃げた先にも、またハンター・・・

気づいた時には、3体のハンターが亜美に狙いを定めていた。

ゲーム残り時間

20:00 / ¥960000

スルスルスル・・・スタツ

亜美

「うっそおおおお!?」

さらに追い討ちをかけるかのように、ハンターへりから放出されたハンターが亜美の目の前に着地。

八方塞がりとは、まさにこの事だ・・・

亜美

「んぎゃ〜っ!」

ポンッ

双海亜美 確保

残り8人

ゲーム残り時間

19:52 / ¥962400

現在のハンターの数 6体

亜美

「(×)(×)もうダメば・・・」

力尽きたその小さな身体が、大地に沈んだ・・・

春香

「確保情報・・・」

あずさ

「あらあら、亜美ちゃん捕まっちゃったのね・・・」

千早

「ハンター放出も始まってるし・・・」

真

「早くしないと・・・!」

ハンター放出が始まり、現在のハンターの数は6体となった。

・ このままでは、ゲーム終了まで1分ごとにハンターが増え続ける・・・

果たして、ハンター放出を食い止める事はできるのか!?

ゲーム残り時間

19:37 / ¥966900

残りの逃走者

天海春香 如月千早 萩原雪歩 高槻やよい 菊地真 水瀬伊織
三浦あずさ 水谷絵理

残り8人

加速する恐怖の中で（後書き）

黒井

「……………合掌！」

真美

「（人）」

アイドル達の笑顔と歌声が、あなたに届きますように

徳丸完さん、本当にありがとうございました！

1分1秒の脅威（前書き）

アイドルマスターを知ってからずっと疑問に思っていた事が一つ。

四糸貴音とは何者なのか？

アイマス最大の謎ですね。

1分1秒の脅威

遂にヘリコプターからのハンター放出が始まった。

ガーデンの発射台からチャフグレネードを打ち上げなければ、ハンターは1分ごとに増え続ける。

すでに1体が放出され、今のハンターは全部で6体。

ゲーム残り時間

19:30 / ¥969000

伊織

「マズイ……本当にマズいわ、これは」

ミッションをクリアしなければ、全ての逃走者に被害が及ぶ。

なんとかして発射台へ辿り着こうとセグウェイのエンジンを激しくうならせる。

その横から、黒い影……

伊織

「って、居るじゃないの！」

ハンターは気づいていないようだ。

ハンターはエリア内をくまなく搜索し、目視や物音、通報部隊の通報によって逃走者を確認すると、見失うまで追い続ける。

伊織

「ええいつ、こうなったら！」

伊織はセグウェイでハンターの背後を通り抜ける。

ハンター

「！」

エンジン音に反応し、ハンターが伊織の確保へ向かう。

しかしセグウェイのスピードはかなりのものであるため、距離が縮まる気配はない。

ハンター

「？」

角を曲がり、ハンターの視界から消えた。

伊織

「助かったけど、もうこれは使えないわね」

ここで、セグウェイのバッテリーが底を突いたようだ。

伊織はセグウェイを乗り捨て、ガーデンへと走る。

ゲーム残り時間

19:00 / ¥978000

上空のへりから1体のハンターがロープで降り立つ。

現在のハンターの数 7体

やよい

「ひっ!？」

そのハンターは偶然にもやよいの視界に入る所に着地。

やよいは思わず反対の方向へ走り出す。

やよい

「ひーっ、怖いです……っで、きゃああー！」

通報部隊

「！」

逃げた先には、通報部隊……

やよいの位置情報が伝えられ、ハンターが確保へと向かう！

やよい

「き、来てれう〜！」

放出されたハンターと、正面からのハンターに挟まれ、逃げ場はもうない。

やよい

「うひゃあああー！」

ポンッ

高槻やよい 確保

残り7人

ゲーム残り時間

18:43 / ¥983100

やよい

「*TWTT） うっう）……」

P

「やよい確保ー！」

美希

「せっかく復活したのに、ちょっとかわいそうなの」

小鳥

「やっぱりハンターが増えてるせいかしら？」

雪歩

「またやよいちゃん捕まっちゃった……」

伊織

「やよい〜〜！」

千早

「これは全滅も有り得るわね……」

春香

「どんどん捕まってく……早く行かないと！」

残る逃走者に対して、ハンターは7体。さらに、エリア内には通報部隊が3人。

このままハンターが増え続ければ、逃走成功は絶望的だ。

しかし、その絶望の中にも、希望の光が見えた。

真

「……」

あずな

「真ちゃん、こっちよ〜」

スイッチを持った真がようやく発射台に到着。
そこにはエリア内をさまよっていたはずのあずさが居た。

真

「よくここまで来れましたね〜」

あずさ

「う〜ん、私は他のみんなを探してははずなんですけど、いつの間にかここに来てました〜」

真

（やっぱりあずさんって、色々と凄いな……）

真はスイッチに発射台のコードを繋ぎ、あずさと共にスイッチに手を掛ける。

あずさ

「いきますよ〜」

真

「はい！」

あずさ・真

「せーのっ！」

カチッ

バシユウウウウ……

天高く打ち上げられたチャフグレネード弾から発生した電磁波によってコントロールを失った1台のヘリがエリア上空から離脱。他の4台もそれを追いかけるようにして飛び去っていった。

ミッションクリア

あずさ

「へりさんが帰っていくわ〜」

真

「へへっ、や〜りい！」

ミッションの成功を喜ぶ真とあずさ。しかし……

ゲーム残り時間

17:58 / ¥9996600

タッチの差でハンターが放出され、ハンターの数合計8体となった。

雪歩

「『ミッション結果』……」

絵理

「『菊地真・三浦あずさの活躍により、ハンターへリを追い返す事に成功』？」

伊織

「た、助かった……」

春香

「『しかし、3体のハンターがエリア内に放出された』……うっ、うっ、厳しいかも」

千早

「現在のハンターの数に8体」

ハンター放出を止める事には成功したが、現在のハンターは3体増えて合計8体。
さらに、3人の通報部隊が捜索を続けている。

これに対し、逃走者は残り7人。

逃げ切れば、132万円。
捕まれば、ゼロ。

果たして、逃げ切れるか!?

ゲーム残り時間

17:29 / ¥1005300

残りの逃走者

天海春香 如月千早 萩原雪歩 菊地真 水瀬伊織 三浦あずさ
水谷絵理

残り7人

ハンターへり撃退1分前、レインボータウンにて。

ルナ

「あらかた片付いたわね」

善永刑事

「ええ…」

ルナと善永刑事によってラグナロクの兵はほとんど取り押さえられていた。

その中で、倒れている一人がルナに銃を向けるが……

ドスン！

兵士

「ぎゃふー！」

引き金が引かれる前に、夢子とサイネリアに巨大手錠で押し潰された。

ルナ

「ナイスファイト！」

夢子

「私達は歌って踊れるだけじゃないのよ？」

サイネリア

「ネットアイドルを舐めないでください！」

その時だった。

『フッフ、まさかここまでやるとはな』

ルナ

「オーデイン！？どこに居る！」

オーデイン

『焦らずとも、私はすぐ近くに居るよ』

サイネリア

「あ、あそこデス！」

サイネリアが指差す先には、レインボータウンにそびえ立つ、フォ
ーチュナル・ファンタズマゴリアの電力を管理する『中央管制タワ
ー』。

そして、その頂上にはオーディンの姿があった。

逃走者達とそれに協力するエージェント・ルナ達の、ラグナロクと
の最後の戦いが始まるうとしていた。

1分1秒の脅威（後書き）

黒井

「私もよく分かっているのだ。本当に何者なんだ？」

真美

「お姫ちゃんはお姫ちゃんだよ、黒井社長」

貴音ファンならそう言ってあげよう！

ちなみにイブニングゼロはゆきまご派です（待て

アイドル達の最終決戦〜FINAL MISSIONスタート！（前書き）

いよいよ逃走劇も大詰め。

果たして、逃げ切る者は、現れるのか！？

そして、フォーチュナル・ファンタズマゴリアの運命は！？

アイドル達の最終決戦〜FINAL MISSIONスタート！

ラグナロクの首領オーデインが居る中央管制タワーをルナ達は見上げていた。

オーデインはタワーの頂上で不敵に笑う。

オーデイン

「貴様を甘く見ていたようだ、エージェント・ルナ」

ルナ

「もうここまでだ、オーデイン！ラグナロクの増援は全てアイドル達によって退けられたわ！」

善永刑事

「もうお前の好きにはさせない！」

夢子

「諦めてさっさと捕まりなさいよ！」

サイネリア

「往生際の悪い男は嫌われますヨ」

オーデイン

「ところがそうはいかないのだよ。すでにヴァニティ・リアクターは私の手の届く所にあるのだからな！」

ルナ

「え……!?!」

オーデイン

「冥土の土産に教えてやろう。ヴァニティ・リアクターはお前達のすぐ近くにある!」

オーデインが指差す場所には、四つの透明なランタンのような形のオブジェ。

その中には、なんとも幻想的な白い光が渦巻いていた。

サイネリア

「ヒヨ?」

善永刑事

「え?」

夢子

「まさか、これがそのなんとかリアクター!?!」

ルナ

「こんな剥き出しになっていたおかげで、かえって気づかなかったわ……」

オーデイン

「そうだ。そして、これを動かすための起動キーはすでに私の手の中にある!」

ルナ
「何っ!?!」

オーディンはSDカード状の二つの起動キーをルナ達に見せた後、ディスプレイに差し込んだ。

オーディン

「フハハハハハ!これでヴァニティ・リアクターは私の思いのままだ!」

ルナ

「貴様……………!」

オーディン

「おっと、妙なマネをしたらリアクターをオーバーロードさせ、爆破する。このタワーは強固なシエルターになるが、レインボータウンは粉々になるだろうよ」

ルナ

「くっ……………!」

ルナは鋭い視線を向けながら、構えようとしたサムライエッジをホルスターに納める。

オーディン

「フッフッフツ。こいつはまだ実験段階のようだが、我々がこれと起動データを持ち帰り、完成させれば、この世の全てが我々のものとなる……」

善永刑事

「……………」

オーデイン

「そうなれば、誰にも我々に逆らう事はできなくなる……」

サイネリア

「ホエエ……………」

オーデイン

「そして、我々ラグナロクが支配する新たな時代の幕開けとなるのだ！」

夢子

「なんて奴なの……………！」

オーディン

「もうすぐリアクターを運び出すためのトレーラーと同時に、我々の新たな援軍が到着する……」

ルナ

「新たな援軍だと!？」

オーディン

「そうだ。そしてお前達四人とアイドル達は、全世界への見せしめとして、全員ここで消え去るのだ!！」

四人

「……………っ!！」

オーディン

「どうあがいても、お前達には死と絶望しか道は残されていない。『フィンブルの冬』から逃れる事はできないのだよ!！」

A D D H U N T E R S × 1 0 0 .

すると、青い光と共に電子音が鳴り響き、トレーラーの荷台の中に100体ものハンターが転送された。

ゲーム残り時間

16:00 / ¥1032000

ピリッピリッ

春香

「……………ん？」

メールだ。

春香

「『FINAL MISSION』…これが最後のミッションか…
…」

あずさ

「『ラグナロクがヴァニティ・リアクターを運び出すために、逃走エリアへと向けてトレーラーを発進させた』」

真

「『そのトレーラーはゲーム残り4分にエリアに到着し、その中に積み込まれた100体の』……ひゃ、100体!？」

伊織

「『100体のハンターが放出される』……ちよ、ちよっと待つて!100体つて、シャレにならないでしょ!？」

絵理

「『阻止するには、レインボータウンにある中央管制タワーの頂上のコンピューターに接続されている』、」

雪歩

「『ヴァニティ・リアクターの起動キーを引き抜き、ゲートを封鎖しなければならぬ』」

千早

「但し、起動キーを取り返すチャンスはゲーム残り5分から4分の1分間の間のみ」……………早く行かないと、私も、みんなも……………！」

FINAL MISSION

100体ハンター放出を阻止せよ！

現在、刻一刻と逃走エリアへと近づいているラグナロクのトレーラー。

トレーラーはゲーム残り4分になると逃走エリアに到着し、トレーラーの中に積み込まれた100体のハンターが放出される。

阻止するには、中央管制タワーのコンピューターから起動キーを引き抜く事でヴァニティ・リアクターを停止させ、正面ゲートを封鎖しなければならない！

但し、コンピューターの部屋にはオーディンが居座っているため、チャンスはゲーム残り5分から4分までの、わずか1分間のみ。遅すぎても早すぎてもダメだ。

春香

「絶対に負けない。ラグナロクにも、ハンターにも、絶対に！」

千早

「危ないけど、行くしかない！」

雪歩

「い、行きますっ！みんなの笑顔のために！」

真

「いよいよラグナロクとの最後の戦いか……よしっ！いざっ！」

伊織

「しょうがない。ここはこのスーパーアイドル伊織ちゃんが一肌脱がないとねっ！にひひっ」

あずさ

「ここは私も頑張っちゃいますね〜」

絵理

「……………行く！」

7人の逃走者全員が、危険を省みずこの最高難度の最後のミッションに挑む。

しかし、8体のハンターと3人の通報部隊が居る中、ちょうど時間通りに中央管制タワーに辿り着くのは、決して簡単な事ではない。

逃走者達にとっては、一度限りの大勝負。

果たして、100体ハンターの放出を阻止する事はできるのか!?

ゲーム残り時間

14:36 / ¥1057200

100体ハンター放出まで

10:36

残りの逃走者

天海春香 如月千早 萩原雪歩 菊地真 水瀬伊織 三浦あずさ
水谷絵理

残り7人

アイドル達の最終決戦〜FINAL MISSIONスタート！（後書き）

黒井

「いくらなんでもハンター100体は怖すぎる！」

真美

「読者の兄ちゃん姉ちゃん達は誰が逃げ切れると思う？最後の最後まで、応援よろ」

最終局面（前書き）

最高難度のミッションが、容赦なく逃走者達を追い詰める……

果たして、彼女達の運命は！？

最終局面

爆弾解体、麻薬取引の阻止、ヘリコプター撃退と続いた今回の逃走劇のミッションも、これで最後となった。

ゲーム残り5分から4分のわずか1分のチャンスの間に中央管制タワーのコンピューターから起動キーを引き抜かなければ、100体のハンターが放出される。

ゲーム残り時間

14:00 / ¥1068000

100体ハンター放出まで

10:00

千早

「あずさん！」

あずさ

「しっつ、静かに」

通報部隊から身を隠すあずさの元に千早が合流。

通報部隊は二人に気づく事なく別の方向へ歩いていった。

千早

「今です！」

こつぜん。

千早

「……………あれ？」

方向音痴ワープ、三度炸裂……………

絵理

「……………まだ？」

真

「ただ待つ事がこんなに大変に思えるなんて……………」

伊織

「早く出ていきなさいよ……………！」

絵理、真、伊織の三人は無事にレインボータウンへと辿り着いた。

しかし、中央管制タワーに入るチャンスは残り5分から。

今三人にできる事は、ハンターに見つからないように身を隠す事のみ。

春香

「危ない……一瞬ハンターがこっち向いてたよ」

雪歩

「みんなから通報部隊に間違われたらどうしよう……」 白い衣装

春香と雪歩も少しずつ中央管制タワーに近づいていた。

そんな中……

あずさ

「あゝ、近くにタワーがあります」

ワープしたあずさが中央管制タワー近くに出現。

あずさ

「それじゃ、いきま……あら〜？」

タワー内に突撃しようとした所で、近くに居る伊織が手招きしているのに気づき、そこへ向かう。

あずさ

「どうしたのかしら、伊織ちゃん？」

伊織

「あんたねえ……メールにあっただでしょ！チャンスは残り5分からだって」

あずさ

「あら、早とちりしちゃったわね〜」

伊織

「やれやれ」

この状況でも、二人はそれぞれのペースだ。

その二人の近くに……

真

「うわっ……ハンターだ……」

絵理

「やばいかも」

ハンター

「……………」

少しでも油断すれば、確実に捕まる。

ただでさえ大ピンチなこの状況と、逃走者の数に比例してミッションが難しくなっていく事が重なり、さすがの絵理も喋り方が普通になるほど追い詰められていた。

その時……………」

あずさ

「じゃあ、一緒に隠れましょうか」

伊織

「それが一番……………」！

ハンター

「！」

見つかった……………

ハンターに気づき、走り出す二人。

追われるのは……………

あずさ

「き、来てます〜！」

あずさだ……………

必死で逃げるものの、普通の人間の女性であるあずさの脚力では、ハンターに敵う訳がない。

さらに、こんな近い距離ではお得意(?)の方向音痴ワープも発動しない……………

あずさとハンターの距離は、あと4メートル。

あずさ

「いぢ〜ん〜ん！」

ポンッ

三浦あずさ 確保

残り6人

ゲーム残り時間

12:39 / ¥1092300

100体ハンター放出まで

8:39

あずさ

「ふう……また捕まってしまいました」

どんな時でも、最後は笑顔で締める。

これぞ、三浦あずさ。

P

「あずささん確保ー！」

亜美

「えー！」

愛

「あの人は真面目に逃げれば絶対捕まらないと思ってたんだけど……」

やよい

「すぐどこか行っちゃいますからね……」

美希

「zzzz…zzzz…」

律子

「おーい、寝るなー！」

響

「貴音も宝箱で寝てるぞ」

貴音

「zzzz…zzzz…」

律子

「はあ………」

伊織

「だから言ったのに……」

ハンターから逃れた伊織は再びタワーの近くへ向かう。

しかし……

通報部隊

「！」

通報部隊に見つかり、位置情報がハンターに伝わる。

伊織

「げっ！？」

通報部隊に気づいた伊織はその場からダッシュで逃げる。

ハンター

「！」

伊織

「ひいっ！」

しかし、正面からハンター……

ウターンして全力で逃げ続けるが、ハンターの驚異的なスピードが小柄な伊織を容赦なく追い詰める。

反対側からやって来た別のハンターも加わり、『前門の虎、後門の狼』状態に……

伊織

「ぎゃああ〜！」

ポンッ

水瀬伊織 確保

残り5人

ゲーム残り時間

11:54 / ¥1105800

100体ハンター放出まで

7:54

伊織

「この変態！ド変態！The 変態ー！」 通報部隊に向かって

雪歩

「伊織ちゃん捕まった……」

千早

「あずさんに続いて水瀬さんまで……」

春香

「うっ……、どうしよう……」

ここに来て二人が続けて確保され、残る逃走者は5人となった。

まだ100体ハンター放出までは時間があるが、チャンスはタイムリミットまでのわずか1分間のみという要素が逃走者達の焦燥感を煽る。

ゲーム残り時間

10:00 / ¥1140000

100体ハンター放出まで

6:00

遂に80分間の逃走劇も、あと10分を残すのみ。

逃げ切れば、最高賞金132万円を獲得。

捕まれば、ゼロ。

ハンター

「？」

春香

「あ、危ない……急がないと！」

一度ハンターに見つかりそうになるも、なんとか切り抜けた春香。

千早

「これは、危ないわね……」

ハンター

「……………」

ハンターに足止めされている千早。

雪歩

「えっほ、えっほ……」

少しずつタワーに近づく雪歩。

真
「ハンター居ないよね……?」

絵理
「……………」

タワーの近くでチャンスを待つ真と絵理。

そして時は流れ、その時間が近づく。

ゲーム残り時間

6:30 / ¥1203000

100体ハンター放出まで

2:30

亜美
「兄ちゃん、あれ!」

P
「何だ!？」

舞

「なんか、撃ち合いみたいな音がするわね」

美希

「うーん、ちょっとうるさいの……」

響

「あ、起きた」

みたい、ではなく本当に撃ち合いだった。

ゲートのすぐ近くで機動隊とトレーラーに乗っているラグナロクの兵士達が激しい銃撃戦を繰り広げていたのだ。

あずさ

「怖いわ……」

伊織

「一体どうなっちゃうのよー!」

牢獄へ帰還したあずさと伊織も思わず不安になる。

ゲーム残り時間

6:00 / ¥1212000

100体ハンター放出まで

2:00

春香

「やっと着いた……！」

千早

「これで全員ね……」

雪歩

「はあ、はあ……」

真

「みんな、準備はいい？」

絵理

「バツチリ？」

五人の逃走者達全員が100体ハンター放出を阻止するため、遂にレインボータウンに集結した。

チャンスは1分間のみ。

失敗すればオーデインの言う通り、逃走者達は放出された100体のハンターによって皆殺し（＝全員確保）にされてしまう！

ゲーム残り時間

5:30 / ¥1221000

100体ハンター放出まで

1:30

オーデイン

「さあ、いよいよ終焉だ。まずは最初の見せしめに、お前達四人をあの世へ送ってやるっ!」

春香達の目の前で、オーデインがタワーから降り、ルナに銃口を向ける。

ゲーム残り時間

5:00 / ¥1230000

100体ハンター放出まで

1:00

春香

「今だーっ!」

オーデイン
「何っ!?!」

遂にハンター放出まで1分を切り、起動キーを取り返すチャンスを迎えた。

同時に五人はタワーへ向かって突撃する!

オーデイン
「貴様ら……! 邪魔はさせんぞ!」

オーデインは銃口を五人に向けようとするが、ルナに銃を持つ腕を抑えられる。

オーデイン
「おのれっ……!」

ルナ
「こいつは私が抑える! 早く起動キーを!」

残り50秒

真

「急がないと……！」

雪歩

「……………！」

春香

「は、ハンターきたあああああ！」

絵理

「嘘……！？」

千早

「くっ……………！」

ハンターに見つかり、散り散りになる五人。

真

「こっち来た……………！」

ハンターに狙いをつけられた真はタワーからハンターを少しでも引き離そうとする。しかし、その脚力によって瞬く間に追い付かれる……………

真

「うわあああっ……！」

ポンッ

菊地真 確保

残り4人

ゲーム残り時間

5:34 / ¥1219800

100体ハンター放出まで

残り34秒

真

「このタイミングで……もうダメだ……！」

残り20秒

春香

「……今しかない！」

いち早くハンターの視界から外れた春香はタワーまで全速力で走る。

そして、ようやく内部へ侵入した！

残り10秒

千早

「くっ………もはやここまでね………」

9

絵理

「万事休す？」

8

雪歩

「もう時間が……！」

4

春香は起動キーを掴む。

5

春香
「……………これだ！」

6

春香
「はあ、はあ……………」

7

春香

「お願い……………」

3

春香

「間に合って……！」

2

そして、起動キーを力の限り引つ張った……

1

スポツ……………

春香

「……………」

P

「おい！あれを！」

貴音

「こゝ、これは……………」

「……………」

牢獄の逃走者達の目の前で、ゲートが音を立てて動く。

麗華

「ゲートが閉じていくぞ……………」

涼

「こねって……………」

美希

「凄いの……………」

あずさ

「春香ちゃん達が……」

伊織

「やったんだわ!」

春香

「……や、やった……間に合ったー!」

絵理

「あ、メールだ?」

千早

「『天海春香の活躍により、起動キーを取り返す事に成功』……!」

雪歩

「『100体ハンター放出を阻止した』……春香ちゃん、凄いよ……!」

100体のハンター放出は、春香によって見事阻止された。

あとはゲーム終了まで逃げ切るのみ……………

ラグナロク兵

「な、なんだと!?!」

ゲートが閉じた事でトレーラーは立ち往生する事になる。

ラグナロクの兵士達は弾薬を使い果たし、機動隊に取り押さえられた……………

そしてミッションをクリアした春香の目の前では……………

オーディン

「お、おのれえっ……………リアクターが……………私の野望が……………!」

オーディンは春香がタワーに登っている間に善永刑事に取り押さえられていた。

善永刑事

「日本警察を舐めるな！」

夢子

「一件落着……かな？」

サイネリア

「これは刑事サン、警視総監賞もらえマスヨ」

ルナはサムライエッジをオーディンの頭に突き付けながら言った。

ルナ

「ふふつ。あなたが北欧神話の最高神『オーディン』ならば、天海春香は神々の最終戦争でそれを喰い殺したといわれる魔狼『フェンリル』にあたるのかしらねえ？」

オーディン

「ぐっ……おのれっ……天海……春香ああああああっ
！！」

その叫びを最後に、ルナの手刀がオーディンの意識を飛ばした……

そして、春香とルナ、瓜二つな二人が改めて対面する。

ルナ

「（ワ）b」

春香

「d（>ワ<）」

ラグナロクの壊滅を喜ぶ二人。

しかし……

ハンター

「！」

真を確保したハンターが、レインボータウンに戻って来た……

春香

「私、ルナの役に立てたかな……」

ルナ

「ええ。あなた達のおかげで……っ！？春香、後ろ！」

春香

「へっ……？わ~~~~」

ポンッ

天海春香 確保

残り3人

ゲーム残り時間

3 : 21 / ¥ 1259700

春香

「……………せっかく……………せっかくルナの役に立てたのに……………
おとくさん……………」

ルナ

「……………何というか……………」ご愁傷様」

P

「春香確保ー！」

愛

「えー！」

美希

「あゝ、せっかくヒーローになれたのに」

響

「ヒロインの間違いじゃないのか？」

絵理

「『レインボータウン中心部にて、』」

千早

「春香……！」

雪歩

「ミッションやってすぐ捕まっちゃった……」

春香の確保により、残る逃走者は3人。

対して、ハンターは8体居る上に、3人の通報部隊が搜索を続けている。

残りわずかな時間を逃げ切れれば、賞金132万円を獲得できる！

捕まれば、賞金はゼロ！

果たして、逃げ切る者は、現れるのか！？

ゲーム残り時間

3 : 00 / ¥ 1 2 6 6 0 0 0

残りの逃走者

如月千早 萩原雪歩 水谷絵理

残り3人

最終局面（後書き）

黒井

「次回でゲーム終了だ。勝つのは、如月千早か、萩原雪歩か、水谷絵理か、それともハンターか………刮目せよ！」

真美

「黒井社長も空気を読んでくれたし、みんな、最後まで応援よろ

」

ラストスパート！（前書き）

遂に、ゲーム終了！

その結末はいかに！？

ラストスパート！

三浦あずさによるハンター放出から始まったアイドル達の逃走劇。

爆弾解体、日高舞による宝箱からのハンター放出、巨大手錠でサイネリア捕獲、まさかの逃走者誘拐から始まった敗者復活ゲーム、ヘリコプターの襲撃、そして100体ハンター放出の危機。

それらを乗り越え、80分間の逃走劇にフィナーレが近づいていた。

残る逃走者は、この3人。

雪歩

「あともう少し……根性で乗り切ってみせます！」

ハンターにビビりまくりながらも、内に秘めた芯の強さでここまで生き残ってきた、萩原雪歩。

絵理

「油断は、禁物？」

体力に自信がなさげであったが、それでもひっそりと生き残っていたネットの姫君、水谷絵理。

千早

「ここで逃げ切らなきゃ、私達のために戦って捕まった春香に申し訳ないわ！」

一度確保されるも、不屈の精神で敗者復活ゲームを勝ち残り、再び本戦へと舞い降りた蒼い鳥、如月千早。

その行く手を阻むのは、エリア内に居る8体のハンターと3人の通報部隊。

彼等に捕まれば、賞金はゼロ！

積み上げてきた夢も希望も、一瞬の油断で一気に突き崩される！

春香

「あと2分……………」

P

「誰か逃げ切ってくれ〜！」

伊織

「全滅したら怒るわよ!」

あずさ

「逃げ切ったら、とびっきりの笑顔で迎えてあげましょう!」

小鳥

「そうですね!」

真

「分かりました!」

愛

「フレ!フレ!千早さん!」

舞

「頑張れ!頑張れ!ゆっきー!(雪歩の事)」

涼

「フレ!フレ!絵理ちゃん!」

亜美

「負けないで!」

麗華

「ファイター!」

やよい

「*・ワ・(うっうー!頑張ってくださいー!」

響

「いぬ美達も応援してくれてるぞー!」

美希

「頑張つて逃げ切つて、みんなで笑顔でおにぎり食べるのー!」

律子

「……ツッコんだら負けな気がする……」

貴音

「……御武運を」

絵理

「もう少し……」

雪歩

「ハンター来ないで……」

千早

「2分が長く感じる……」

ひっそりとハンターから身を隠す三人。

しかし……

ハンター

「！」

牢獄の逃走者達の願いもむなしく、一人の逃走者がハンターに見つかった。

絵理

「来た〜〜！」

涼

「あ！絵理ちゃんだ！」

麗華

「追われてるぞ！」

真

「頑張れー！」

牢獄の近くまで走ってきたため、その中の逃走者達の声援が絵理の耳に入る。

しかし、その声援の甲斐なく、距離は縮まっていけばかり……

絵理

「ひうう〜！」

ポンッ

水谷絵理 確保

残り2人

ゲーム残り時間

1:07 / ¥1299900

愛

「ああ〜……………」

やよい

「捕まっちゃいました……………」

絵理

「あ、あと1分……………だった……………残念、無念？」

雪歩

「ああつ……絵理ちゃん捕まった……」

千早

「残るは私と……萩原さんの二人……」

ゲーム残り時間

1 : 00 / ¥ 1302000

遂にゲームは残り1分を切った！

逃げ切れば、132万円。

捕まれば、ゼロ！

雪歩

「あと1分……！」

千早

「絶対逃げ切る……！」

残り50秒

絵理

「く、悔しい……ぐすん」

舞

「惜しかったわね……」

あずさ

「千早ちゃんと雪歩ちゃんには、逃げ切って欲しいわ……」

亜美

「千早お姉ちゃん！ゆきぴょん！頑張れ！」

残り40秒

春香

「みんな！私達でカウントダウンしようよ！」

美希

「22、なの！」

響

「21！」

真

「20！」

涼

「19！」

貴音

「18………」

亜美

「17！」

あずさ

「16！」

絵理

「15？」

春香

「14！」

千早

「 1 3 1 2 1 1 1 0 」!

雪歩

「 9 8 7 6 」!

牢獄の逃走者達

「 5 4 3 2 1 」!

ゲーム残り時間

0 : 0 0 / ¥ 1 3 2 0 0 0 0

逃 走 成 功

如月千早 萩原雪歩 賞金132万円獲得

千早

「お、終わった……逃げ切ったのね、私……！」

雪歩

「……………や、やった……私……………やりましたああああああっ
！」

P

「如月千早、萩原雪歩、逃走成功——！」

牢獄の逃走者達

「おおお~~~~っ！」

春香

「千早ちゃん、おめでとう——！」

伊織

「雪歩、凄いじゃない——！」

舞

「私の応援のおかげかしら？」

美希・亜美・愛

「それはないよ（キッパリ）」

数分後、見事80分間を逃げ切った千早と雪歩が他の逃走者達の待つ牢獄へ帰還。

雪歩

「ただいま戻りました！」

千早

「……………」

雪歩は笑顔でやって来たが、千早はなぜか俯いていた。

春香

「千早ちゃん？」

律子

「ケガでもしたの？」

千早は首を横に振り、顔をあげる。

その蒼い目からは、涙がぼろぼろとこぼれていた。

千早

「あ、あの……………私……………」

わしゃっ。

千早

「あっ……………？」

涙のせいでうまく喋れない千早の頭を、Pはただ優しく撫でた。

P

「よく頑張ったな、千早」

千早

「……………はい……………！」

美希

「ハニー、雪歩の事も褒めてあげないとだよ？」

伊織

「そうよ！雪歩は最初から80分間逃げ切ったんだから」

P

「そうだった！雪歩もよく頑張ったな！」

雪歩

「はい！みんなの応援のおかげでここまで頑張れました！でも、これで私の中の元気成分は一滴残らずなくなっちゃいました……………（パタリ）」

春香

「ゆ、雪歩!？」

やよい

「雪歩さん!寝ちゃダメです!」

亜美

「寝たら死んじゃうよー!」

あずさ

「雪歩ちゃん!私を置いていかないでえー!」

貴音

「雪歩殿!気を確かに!」

雪歩

「いい夢、見させてもらったぜ……………ガクッ」

春香

「雪歩……………!」

やよい

「雪歩さああああん!」

亜美

「ゆきぴよ……………ん!」

あずさ

「雪歩ちゃあああん!」

貴音

「雪歩殿————！」

律子

「……そこ、変な小芝居始めない！」

千早

「そんな……萩原さん……！萩原さああああああん！」

真

「って、千早まで乗せられてるし！」

P

「昔の千早だったら冷たい顔でスルーしてたな」

千早

「……………// //」

雪歩

「千早ちゃん……」

愛

「あ、目を覚ましました！」

美希

「参加するタイミング逃したの……あふう」

その時、オープニングゲーム以来となるあの声が響く。

今度はモニター越しではなく、実際に姿を現した。

高木社長

「いやはや、如月君！萩原君！素晴らしい走りっぷりだったよ！」

千早・雪歩

「しゃ、社長！」

高木社長

「君達はこの苛酷なゲームを見事生き残り、逃走成功の栄誉を勝ち取った。如月君は一度捕まってしまうが、逃げ切った事に変わりはない」

千早

「いえ、そんな……」

高木社長

「萩原君も、80分間の恐怖によく耐え抜いたな。その強さがあれば、君の夢はもうすぐそこだ」

雪歩

「はい……ありがとうございます！」

高木社長

「うむ！とにかく二人ともよく頑張った！さあ、賞金132万円を受け取ってくれたまえ！」

二人は用意されたガラスケースを開き、中にある二人分の132万円の札束を一束ずつ手にとった。

千早

「80分間……逃げ切りましたー！」

雪歩

「132万円、獲りましたー！」

逃走者達

「イエーイ！」

謎の存在

「……………」

その姿は、謎の存在によってモニターに映し出されていた。

画面をスライドさせると、ゲーム開始からエリア内に居た4体のハンターが煙を上げて倒れている映像が映し出される。

HUNTER 01 k r
カメラアイ停止

HUNTER 02 n n
関節部分に異常発生

HUNTER 03 c j
許容熱量オーバー

HUNTER 04 f z
オートバランスー停止

実験結果を保存しますか？

[YES] [NO]

謎の存在は「YES」をタッチした。

しばらくすると画面が切り替わり、6つのモニターが現れる。

謎の存在

「本日の実験は以上です」

モニターA

「その様子だと、ハンターの開発は難航しているようだな……………」

謎の存在

「はい。しかし、ラグナロクの連中のおかげで、面白いものを見つけました」

謎の存在は何かの図面のようなデータを見せる。

モニターB

「ヴァニティ・リアクターか……………」

謎の存在

「奴らが起動キーを使った事で、ファイヤーウォールが一時的に機能を停止。ハッキングに成功しました」

モニターC

「確かにそれを使えば、ボディに掛かる負担を減らしつつその機能を向上させる事ができる……………」

モニターD

「となると、より多くの開発費が必要になるだろう」

モニターE

「そついう事になれば、失敗は許されないぞ」

謎の存在

「分かりました……………」

モニターF

「更なる実験の成果を、期待しているぞ……………」

モニターA

「次の報告を待つ……………」

その声を最期に、6つのモニターは消え去った……………」

run for money 逃走中 with アイドルマス
ター)

f i n .

ラストスパート！（後書き）

黒井

「見事な逃げっぷりだった！さすがの私でも、敵ながらあっぱれと言わざるを得ない！」

真美

「あー、やっと黒井社長がみんなの事褒めてくれた！」

黒井

「か、勘違いするな！あくまで逃走者としてだ！さて、私はそろそろデスクワークの時間だからこの辺で失礼するよ。アデュー！」

真美

「行っちゃった……。とにかく、ここまで読んでくれてありがとう！ゲームはもう終わったけど、もうちょっとだけ続くよん」

嘘予告？（前書き）

最期は嘘予告で締めくくりたいと思います。

それでは、どうぞぞー！

2011年3/20 文面を変更

嘘予告？

きらめく逃走劇は、さらなる恐怖へ！

さあ、ゲームを始めようではないか！

再び始まるアイドル達の戦い。

逃げた時間に応じて、賞金を獲得できるゲーム。

それが………！

（run for money） 逃走中

春香

「私達の活躍を、ハリウッドのプロデューサーさんに見せてあげたいです！」

律子

「ここで逃げたら、竜宮小町プロデューサーの名折れです!……っ
て、逃げなきゃだめなんだった、このゲーム!」

愛

「今の私達ではIA大賞はもちろん、春香さんにも届きません。だ
がら、精一杯頑張ります!」>ワ<」q

無印、『SP』、『ディアリースターズ』、そして『2』の全ての
次元を詰め込んだ、イブニングゼロ独自の『アイドルマスター』の
世界で、アイドル達が走る!

美希

「これはちょっと厳しすぎなの〜!」

涼

「ぎゃおおおおおん!こんな酷いよー!」

さらに苛酷なミッションが、逃走者達を待ち受ける！

絵理

「ひううううー！」

亜美

「ぎゃー、やばいー！」

恐怖の追跡者・ハンターもパワーアップ！？

そして、逃走者達を襲う、前代未聞のイベント……

「○○○、
」に居ます」

逃走者は小鳥・P・舞を除く16人が再び参戦！

雪歩

「絶対、二連覇します！」

千早

「一度逃げ切っているからには、負けられないわね」

そして、新たな挑戦者

亜美

「んっふっふっ、一緒に頑張る」

「もちろん！真美は、最初から逃げ切る自信たっぷりだよ」

双海真美、参戦！

「あんな面倒なのと一緒に居たら、調子出ないわよ」

桜井夢子、参戦！

「センパイイ、すつごく怖いデス」

絵理

「もう、しょうがないなあ？」

サイネリアこと鈴木彩音、参戦！

「まあ、貧乏人らしく頑張れば？」

やよい

「うっう、さりげなく酷いです……」

麗華

「りんの毒舌は相変わらずだな。なあ、ともみ」

「……………別に」

魔王エンジェルメンバー・朝比奈りん、三条ともみ、参戦！

そして……………

春香

「やっぱりこんなパフォーマンスは男の人ならではのだよね……………」

「それは嬉しいね。今の俺達なら……………」

「逃走成功なんて、楽勝、だぜ！」

「今日は僕も調子がいいみたいだし……………って、ハンターきたああああ！」

「やっべえ〜！」

アイドルマスター史上最大のライバル、ジュピター参戦！

逃走者は、総勢24名。

響

「やっぱりハンターはおっかないぞ……………」

恐怖が支配し……………

あずな

「自首できる所はどこかしら？それよりここはどこかしら？」

欲望が渦巻き……………

貴音

「こんな所で、惨めな姿をさらす訳にはいきませんわ！」

アイドルとしての意地が、火花を散らす！

果たして、逃げ切る者は、現れるのか！？

逃走中 With アイドルマスター Round 2 (仮)

現在、構想中？

嘘予告？（後書き）

実はすでに誰に逃げ切らせるのかは決めているんですが、ミッシェンや舞台はまだ構想中。

もしかしたら本家の予告番組のような作品を投稿するかもしれませんが。

最期に、この度は『run for money 逃走中 with
h アイドルマスター』を御愛読いただき、真にありがとうございます。
ます。

それでは、またいつか。

きらめく二次創作の舞台でお会いしましょう！

11月20日
午後零Pこと、イブニングゼロ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3969q/>

～ run for money ～ 逃走中 with アイドルマスター

2011年9月10日17時21分発行